

令和元年度 宇都宮大学 全学FDの日

1. 日 時 令和元年9月20日（金）9時から
2. 場 所 大学会館2階 多目的ホール
（工学部アカデミアホールに映像・音声配信）
3. テーマ 学修者本位の教育に向けて
～学修者自身が学修成果を説明できる教育のために～

4. 日 程

【発表】

- 9:00 ベストレクチャー賞選考理由報告
- 9:05 ベストレクチャー賞及び殿堂表彰者発表
- 9:15 ベストレクチャー賞受賞者による実践報告

【全学FDシンポジウム】

- 10:00 学長挨拶
- 10:05 趣旨説明 池田 幸(理事(学務・情報担当)・教務委員会委員長)
- 10:10 基調講演「誰の何のための教学マネジメントなのか
～グランドデザイン答申のいう学修者本位の教育に向けて～」
大森 昭生 氏(共愛学園前橋国際大学長・中教審教学マネジメント特別委員会委員)
- 11:00 報告「教育戦略企画チーム活動報告」
加藤 紀弘(教育戦略企画チームメンバー・教授)
酒井 一博(教育戦略企画チームメンバー・教授)
石井 和也(教育戦略企画チームメンバー・教務委員会委員・特任助教)
- 11:30 討論
- 12:00 終了(予定)

(参考) 各学部の取組：個別FD活動

地域デザイン科学部【15:00～17:00】

コミュニティデザイン学科：コモンズ3(陽東11号館3階)

建築都市デザイン学科：建築会議室(陽東8号館5階)

社会基盤デザイン学科：社会基盤デザイン学科会議室(陽東8号館4階)

国際学部【13:30～15:00】 国際学部大会議室(峰5号館A棟4階)

教育学部【13:30～15:30】 教育学部8E11教室(峰8号館E棟1階)

工学部【13:30～15:30】 アカデミアホール(陽東10号館1階)

農学部【13:00～15:15】 農学部大会議室(峰1号館C棟2階)

目 次

第16回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿	1
令和元年度「宇都宮大学ベストレクチャー賞殿堂」決定者一覧	2
第16回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項	3
基調講演「誰の何のための教学マネジメントなのか ～グランドデザイン答申のいう学修者本位の教育に向けて～」	4
(共愛学園前橋国際大学学長) 大森 昭生 氏	
※第16回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者による授業実践の紹介 資料は別添にてご用意しております。	

第16回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿

別紙

○学部推薦

学部等	授業科目名	担当教員名	科目コード	受講者数	回収枚数	平均点	備考
地域デザイン科学部	鉄筋コンクリート構造	中野 達也	R320020	21	21	4.8	
国際学部	アジア近現代思想論	松金 公正	K530067	13	12	4.9	
教育学部	鍵盤アンサンブル演習	平井 李枝	S410305	12	11	4.85	
教育学部	初等理科教育法	出口 明子	S102340	22	20	4.76	全学FDの日における発表者
教育学部	知的障害児心理・生理・病理	司城 紀代美	S702110	32	31	4.62	
工学部	高電圧工学	東口 武史	T260112	78	62	4.76	全学FDの日における発表者
工学部	成形加工学	白寄 篤	T160322	64	48	4.75	
工学部	レーザー工学	東口 武史	T261128	70	59	4.73	
農学部	基礎有機化学	謝 肖男	A000025	35	33	4.94	
農学部	森林基礎生物学	逢沢 峰昭	A007016	34	33	4.85	
基盤教育	新入生セミナー	栗原 俊輔	G133001	17	16	4.82	
基盤教育	Honors English A	ローリー バンウェル	G241200	35	29	4.80	全学FDの日における発表者
基盤教育	生活の美学	中島 望	G381563	17	16	4.97	
基盤教育	3.11と学問の不確かさ	清水 奈名子	G845223	17	16	4.93	

○学部推薦(自薦又は他薦)

学部等	授業科目名	担当教員名	科目コード	備考
工学部	高分子化学	爲末真吾	T360049	
農学部	作物生産技術学	高橋行継	A000175	

令和元年度「宇都宮大学ベストレクチャー殿堂」決定者一覧

学部	科目名(受賞回数)	氏名	備考
農学部	基礎有機化学 (3回目)	謝 肖男	
農学部	森林基礎生物学 (3回目)	逢沢 峰昭	

※ 平成16年度(第1回)からの受賞記録により3回以上受賞している科目。読み替え科目及びカリキュラム変更に伴う科目名の変更も同一科目としている。

「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項

令和元年 6 月 4 日 教務委員会

本学では、基本的な教育理念として「広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践し、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する。」を掲げている。

この教育目標を達成するための一環として、優れた授業を行っている教員にベストレクチャー賞を授与し、併せて、教員相互の授業改善の意識向上に役立てることを意図している。

なお、ベストレクチャー賞は、優れた授業への取り組みであることに鑑み、本学における志願者確保等の観点から、その取組内容を広報活動においても活用することとする。

以下に「宇都宮大学ベストレクチャー賞」の選考について必要事項を定める。

1. 本学の専任教員が担当する学士課程の全ての授業科目（以下「科目」という。）を選考対象とし、選考された科目の担当教員に対してベストレクチャー賞を授ける。
 - (1) 当該科目を単一のクラス^{※1}で開講し複数の教員で担当している場合、その担当教員全員に対して授賞する。
 - (2) 同じ科目で担当教員が3回受賞した場合は、「宇都宮大学ベストレクチャー殿堂」とし、翌年度以降はその教員に対して当該科目における再度の授賞はしない。
 - (3) 科目を単一のクラスで開講し複数の教員が担当している場合は、同一教員が3回受賞したときに殿堂入りとし、翌年度以降はその教員に対して当該科目における再度の授賞はしない。
 - (4) 科目を複数のクラスで開講している場合は、全クラスをまとめて選考しその担当教員全員に対して又は特定のクラスのみを選考しそのクラスの担当教員全員に対して授賞する。
 - (5) 科目を複数のクラスで開講していて全クラスが受賞した場合は、同一教員が3回受賞したときに殿堂入りとし、翌年度以降はその教員に対して当該科目における再度の授賞はしない。
 - (6) 科目を複数のクラスで開講していて一部のクラスが受賞した場合は、同一教員が3回受賞したときに殿堂入りとし、翌年度以降はその教員に対して当該科目における再度の授賞はしない。
2. ベストレクチャー賞の授賞科目と授賞者は、教務委員会において決定する。
3. ベストレクチャー賞受賞者は、「全学 FD の日」に発表し、表彰状及び副賞を授与する。
4. ベストレクチャー賞受賞者の取り組み内容については、以下のようにして、他の教員の授業改善の意識向上に役立て、さらには広報活動に活用する。
 - (1) 受賞者は授業に対する心構えや取り組み方などをまとめた資料「授業概要」を作成する。「授業概要」は学内職員 Web サイトに公開する。
 - (2) 受賞者は、求められた場合に「全学 FD の日」、学部別の FD 活動、その他の学内の FD 行事等にて、自身の取り組みについて発表する。
 - (3) 受賞者は、オープンキャンパスの日などにおいて模擬授業を実施するよう努める。なお授業形態によって模擬授業の実施が困難な場合には、この限りではない。
 - (4) 受賞者の授業科目の参観を学内で広く推奨する。
5. その他選考に必要な事項は、教務委員会が別に定める。

以上

※1 ここで「クラス」とは、時間割コードが割り当てられた授業のことを指すこととする。

宇都宮大学「全学FDの日」全学シンポジウム

誰の何のための教学マネジメントなのか ～ブランドデザイン答申のいう学修者本位の教育に向けて～



CINTENTS

1. 自己紹介（自大学紹介）

2. グラウンドデザイン答申と教学マネジメント

3. 学修成果の可視化の視点と取組

自己紹介(自大学紹介)

共愛学園前橋国際大学の概要

共愛学園の沿革



KYOAI
130th Anniversary

- 1888年 (明治21年)
前橋英和女学校開校
- 1889年
上毛共愛女学校と改称
- 1939年
共愛幼児園開設
- 1947年
中学・高等学校の併設
- 1988年
共愛学園女子短期大学開学
- 1999年
共愛学園前橋国際大学開学
- 2009年
共愛学園木瀬保育園開設
(前橋市より移管)
- 2011年
共愛学園学童クラブ開設
- 2016年
共愛学園小学校開校
共愛学園こども園開設

共愛学園に連なる学校

共愛学園こども園

共愛学園学童クラブ

共愛学園小学校

共愛学園中学校

共愛学園高等学校

共愛学園前橋国際大学

国際社会学部 国際社会学科

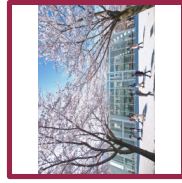
E	英語コース ENGLISH COURSE
I	国際コース INTERNATIONAL STUDIES COURSE
I	情報・経営コース INFORMATION TECHNOLOGY BUSINESS MANAGEMENT COURSE
P	心理・人間文化コース PSYCHOLOGY HUMANITY AND CULTURE COURSE
C	児童教育コース CHILDHOOD EDUCATION COURSE

国際社会学部
国際社会学科

国際社会学部
国際社会学科

共愛学園前橋国際大学の概要

名称 英語名	共愛学園前橋国際大学 KYOAI GAKUEN UNIVERSITY
理念	共愛 = 共生の精神
目的	国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の養成
モットー	学生中心主義 地域との共生 ちよつと大変だけど実力がつく大学です
定員	入学定員255名 収容定員970名
教職員	専任教員33名 専任職員24名
経営	—2018年度決算— 借入金無 教育活動収支差額¥105,614,788



共愛学園前橋国際大学の特長

**先進的な教職一体
ガバナンス**

スタッフ会議

- ・理事長、学長、全教職員が参加
- ・大学の方向性を左右する最重要課題を審議

各種大学運営センター

- ・教員も職員も全員がスタッフとして所属し、主体的に大学を運営
- ・属性に関わらず学長を互選



迅速な意思決定

学長の強力なリーダーシップ

理事会の強力なバックアップ

学生中心主義
学生は大学づくりのパートナー

大学運営への学生参画

- ITサポート
- 英語アカデミックチューター
- TA(ティーチングアシスタント)
- 図書館ピアチューター
- 留学生チューター
- 障がい学生支援チューター
- 学生広報スタッフ/オープンキャンパス運営
- 学生カフェ運営
- インターンシップ奨学金/ワークスタディ奨学金
- 部室構築プロジェクト(2014): 学生に予算を預け、全て学生が担当。

学生の意見を反映させる取組

- スピークアップ相談システム
- 学生アンケート
- 授業アンケート
- 4号館建築プロジェクト(2011)
- 国際交流実習建築プロジェクト(2015)

学生による取組

- 学内フリーペーパー
- エコ・キーパー
- ネット情報発信
- キャリア学習
- 新入生歓迎・留学生歓迎行事
- 各種多様な学内イベント

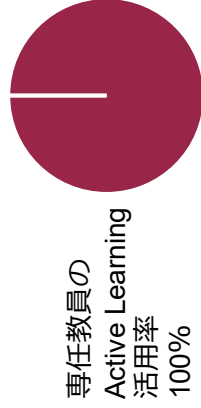
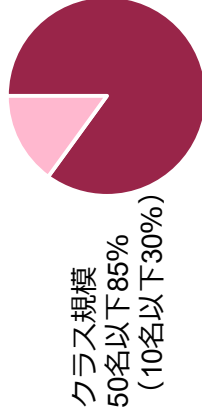
※一部は学生プロジェクト奨学金で支援

地学一体

地域貢献

地域共生・連携

地学一体



2019年度入学者県内割合

88%

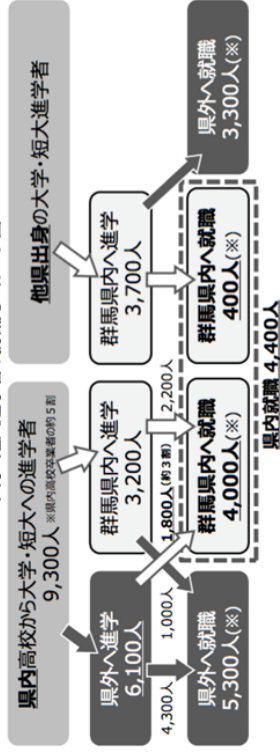
2018年度県内就職割合

70%

(2018年度就職率98%)

貢献から連携へ/連携から一体へ
と歩みを進め地域(行政・学校・
企業・NPO)との協働学修多数

大学・短大進学者の就職先 イメージ図



※平成27年3月の県内高校卒業者をベースに県勢調査に基づき推計(概数)

地学一体で育てる「次世代の地域社会を牽引するグローバルリーダー」 =「飛び立たないグローバル人材」

KYOAIGLOBAL PROJECT



各コースの専門性とGGJ・COCの実践が有機的に連動し、質の高い学修プログラムを提供

スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 (GGJ)

- (全国42大学・県内1大学)
グローバルリーダーの育成へ
- Global Career Training 副専攻
 - 地域連携グローバル人材育成推進協議会
 - Global Project Work
 - 海外留学60%

国際社会学部

- 英語コース
- 国際コース
- 情報・経営コース
- 心理・人間文化コース
- 児童教育コース

文部科学省 地(知)の拠点

地(知)の拠点整備事業 (COC)

- (全国77大学・県内2大学)
- ＜地学一体化加速プロジェクトの拠点創成へ＞
- サービスマーケティングチーム
 - 地域理解科目群の100%履修
 - 地域産人材に求められる素養の検討
 - 地学一体化モデルの構築

学修プログラム

学生

学修成果確認

学修質保証

学びのPDCA

学修プログラム
のPDCA

大学教育再生加速プロジェクト (AP) (全国46大学・県内1大学)

- ＜学修質保証システムの構築＞
- アクティブラーニングの促進と質保証
 - 学修質保証システム基盤整備
 - 学修成果の可視化

GGJ・COC・APの3大事業の採択を受けているのは全国で4大学のみ

〔学修質保証システムにより、学生は学修成果を確認しながら学びのPDCAを、大学は学修プログラムのPDCAを展開〕

地域・地域産業界に必要とされる人材

グローバル・リーダー
地域に根差しながら、地域と世界をつなぎ、
海外の人材・物流・活力を地域に取り込み、
地域の振興を先導する人材

〔学生の85%が群馬県出身、卒業生の70%が県内に就職〕

文部科学省 地(知)の拠点

地(知)の拠点大学による地方創生推進事(COC+)
(全国40大学・私立大学は2大学のみ)

＜持続的的地方創生共同体形成プログラム

：若者定着領域総ぐるみ計画＞

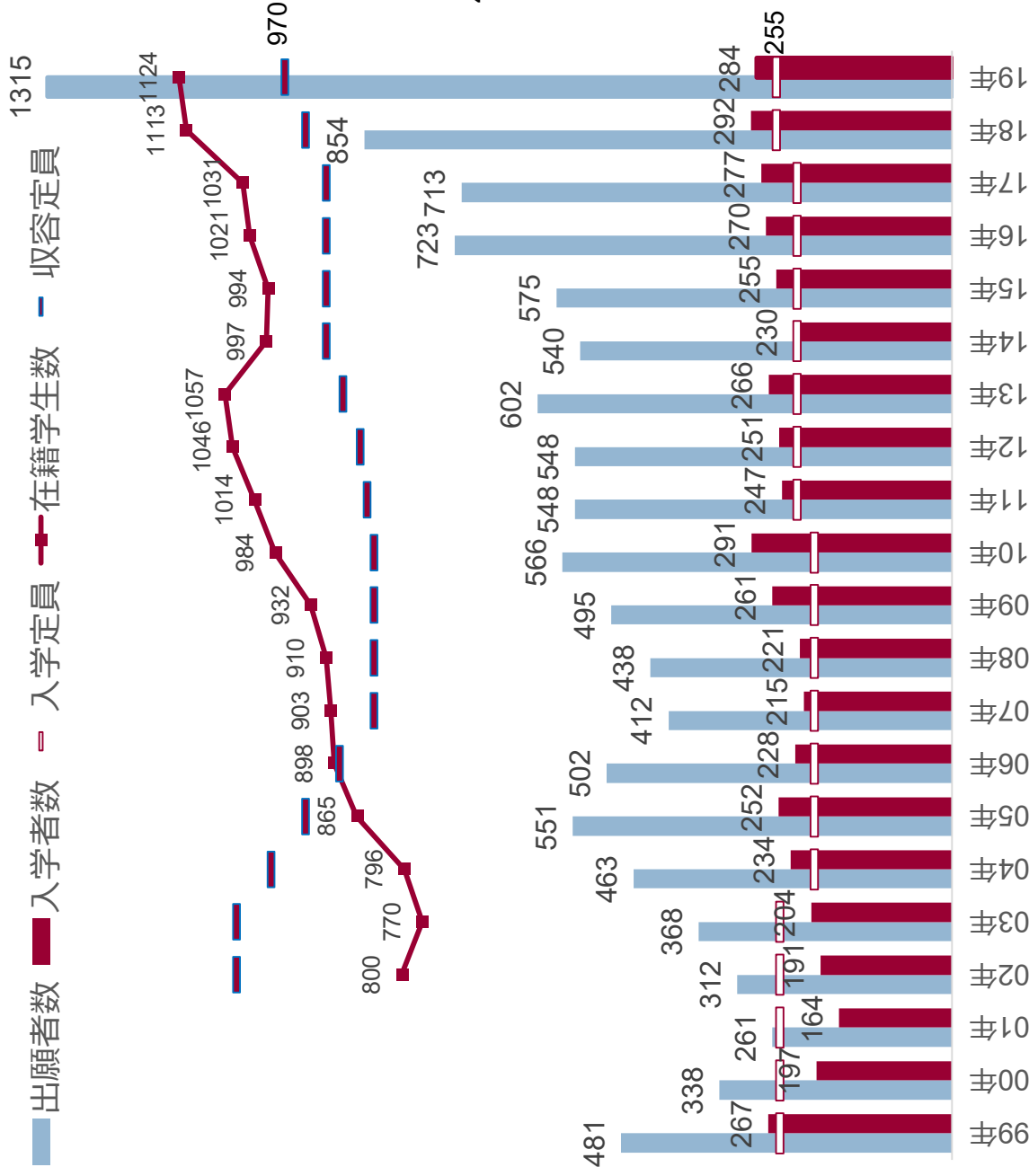
- 社会連携教育による地域人材育成
 - 地域産人材育成 □ インバウンド人材育成
 - イノベーション人材育成 □ 次世代農業人材育成
- 多様なインターナショナル
- 産業界と大学の密なコミュニケーションの創出
- 地元人材のための雇用創出やUTターン支援

事業協働機関

- 【参加大学】
高崎商科大学、上武大学、明治学院大学
群馬県、前橋市、高崎市、伊勢崎市、富岡市
【参加自治体】
群馬県商工会議所連合会、群馬県中小企業同友会、前橋商工会議所、群馬銀行、しのめ信用金庫、相模原食料、上毛新聞社、ワークエントリ、サンデンホールディングス、ジェイアイエヌ、相模原食料、サンデン環境みらい財団、教育支援北関東、いせさきNPO協議会
【参加企業等】
群馬大学、群馬県立女子大学、群馬県立県民健康科学大学、前橋工科大学、高崎健康福祉大学、東洋大学 (板倉キャンパス)、群馬医療福祉大学

在籍学生数・出願者数・入学者数・推移

偏差値の推移(参考)



※出願者・入学者・入学定員には3年次編入 [5名定員] 含まず

99 00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

代ゼミ 河合塾
進研模試

5位

学長が教育面で評価する大学

1. 金沢工業
2. 国際教養
3. 国際基督教
4. 東京工業
5. 共愛学園前橋国際

『大学ランキング2020』（朝日新聞出版）

3位

学長からの評価
＜注目する学長＞

（朝日新聞大学ランキング2019）

12位

学長からの評価

＜総合＞

（朝日新聞大学ランキング2020）

6位

文科省支援事業
採択数

（朝日新聞大学ランキング2018）

THE世界大学ランキング2019

総合順位

- 全国141位～150位
北関東甲信越10位（私学1位）
群馬県2位（私学1位）

国際性分野

- 全国40位
北関東甲信越3位
群馬県1位

教育充実度分野

- 全国75位
北関東甲信越6位
群馬県1位

2位

全学生に占める
留学経験者割合
（短期）

（THE世界大学ランキング日本版2017）

5位

グローバル時代を先導する
改革に積極的な大学
（サンデー毎日2016.1）

18位

全業業に対する
AL授業の割合

（THE世界大学ランキング日本版2017）

28位

グローバル教育力
（週刊ダイヤモンド2015.11）

メディア等での紹介

PRESIDENT (2012.10.15号)
就職に強い力をつけている大学として紹介

THE21 (2012.5月号)
大学冬の時代に教育と運営に成功している大学として紹介

TAITEN (2013.2月号)
教育の結果学生募集が順調な大学の事例として紹介

サンデー毎日 (2013.10月27日号)
受験のカルスマ(予備校関係者)アンケートで「受験生・保護者に薦めたい大学」として紹介

THE21 (2013.4-5月号)
受験生や保護者が本当に選ぶべき大学として紹介

Global化に挑戦する大学
(株)アネスタ)
グローバル人材育成推進事業採択大学特集

グローバルな時代の大学選び
(ベネッセ)
グローバル人材育成に取り組み大学として紹介

ガイドライン (2013.7・8号) (河合塾)
学生の主体的な学びを支援する取組をしている大学として紹介

Between (2014.8 - 9月号)
(ベネッセ)
地方大学のグローバル人材育成

サンデー毎日 (2015.1月合併号)
グローバル時代を生き抜く大学はココだ！文科省支援事業ランキング
全国私学9位

教員養成専門誌シナプス (2015.2)
<特集> 新しい学びを取り入れた養成・研修の実際
アクティブラーニングを通じた教員養成の取組が紹介されている。
IDE現代の高等教育(No.598)
学生の成長

学校法人(VOL.40/No.9/2017) 共愛学園前橋国際大学の経営戦略(前)
学校法人(VOL.40/No.10/2018) 共愛学園前橋国際大学の経営戦略(後)

私学経営(No.515)
地学／教職／学職一体の教育改革

NTT東日本Business (No.814)
地域のためのグローバルな大学づくり

週刊ダイヤモンド (2015.11.7号)
最強大学特集
グローバル教育力 **全国28位**

サンデー毎日 (2016年1月合併号)
グローバル時代を先導する改革に積極的な大学はここ **全国私学5位**
PRESIDENT (2018.10.01号)
高校・大学実力激変マップ
プレジデントFamily (2019.03)
大学選び大百科 就職力のある大学

Between (2015.4 - 5月号)
<特集> アクティブラーニングの実質化

週刊ダイヤモンド (2015.11.7号)
最強大学特集
グローバル教育力 **全国28位**

本学が取り上げられている書籍



『「地域に愛される大学のすすめ」(2011※)東信省堂、13※)展開の好事例として紹介』



『「深いつながるアクティブラーニング」(東信省堂、13※)展開の好事例として紹介』



『「私立大学に何を成しているのか」(成文堂、20※)ガバナンスや教育改革の好事例として紹介』



『大学の戦略的経営手法、法』(大学教育出版、2016※)ガバナンスの好事例として紹介』



『消えゆく「限界大学」』(白水社、2016※)地域との関係性の好事例として紹介』



『グローバルカルは鍛錬できる』(共愛学園前橋国際大学出版部、2017)



『「グローバル化時代の日本における大学の教育」(東信省堂、2018※)グローバル教育の好事例として紹介』



『「学修成果の継承」(東信省堂、2018※)地方大学の好事例として紹介』



『「今選ぶなら、地方小規模大学」(朝日新聞、2018※)地方の小規模大学の好事例として紹介』



『「地方大学再生」(朝日新聞、2019※)地方私立大学の好事例として紹介』

本学が取り上げられているWEBで読める記事等

YAHOO NEWS

大学改革の成功例として紹介



<https://news.yahoo.co.jp/byline/ishiwatarireiji/20170911-00075593/>

AERA dot.

定員割れからV字回復「前国大の奇跡」 全国の大学トップから注目される学長のリーダーシップ

<https://dot.asahi.com/dot/201710260086.html?page=1>

BETWEEN 学修成果の可視化

高入校の取組例



<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2016/04/post-20.html>

Guideline

学生エンゲージメントの好事例として



<http://www.keinet.ne.jp/gi/16/09/04eng.pdf>

AERA dot.

アンケート調査で判明！ 大学トップが尊敬する「学長ランキング」

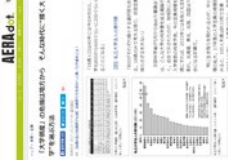
<https://dot.asahi.com/dot/2017102600085.html?page=1>

BETWEEN 高大接続による地域人材育成

地域人材育成



http://shinken-ad.co.jp/between/backnumber/pdf/2017_9_tokushu07.pdf



BETWEEN オナーズプログラムについて

オナーズプログラムについて



<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2017/10/kyoai-honors.html>

AERA dot. (週刊朝日)

「大学倒産」の危機は地方から そんな時代に“輝く大学”を選ぶ方法 < 輝く大学として紹介 >

<https://dot.asahi.com/wai/2017101900018.html?page=1>

カレッジマネジメント

小さくても強い大学の理由

http://souken.shingakunet.com/college_m/2018_RCM208_14.pdf



大学教育と情報 (2016 No.2)

eポートフォリオを活用した学修成果の可視化～エビデンス・ベーストの自己評価システムによる自律的学修者の育成～

http://www.juce.jp/LINK/journal/1701/pdf/03_06.pdf

日経新聞全国版(8月15日)

「グローバル時代をひらく」

<https://www.nikkei.com/article/DGKZO34141550U8A810C1TCN000/>
<https://www.nikkei.com/article/DGKZO34141620U8A810C1TCN000/>

朝日新聞全国版(9月29日)

社説「大学の将来像 連携 深め地域に貢献を」

<https://www.asahi.com/articles/DA3S13700656.html/>

TV出演



SmaStation (テレビ朝日)



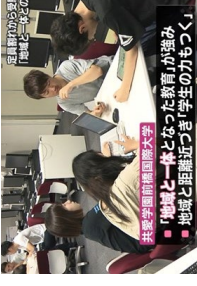
教育現場の最前線！ 未来を支える君たちへ (テレビ東京)



金曜イチから (NHK)



リーダーズ・アイ (群馬テレビ)



News every (日本テレビ)

グラントデザイン答申と教学マネジメント

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)【概要】

平成30年11月26日
中央教育審議会

I. 2040年の展望と高等教育が目指すべき姿 ... 学修者本位の教育への転換 ...

必要とされる人材像と高等教育が目指すべき姿

- 普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていく
- 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材
- 「何を学び、身に付けることができるのか」十個人々の学修成果の可視化(個々の教員の教育手法や研究を中心にシステムを構築する教育からの脱却)
- 学修者が生涯学び続けられるための多様な柔軟な仕組みと流動性

高等教育と社会の関係

- 「知識の共通基盤」
- 教育と研究を通じて、新たな社会・経済システムを提案、成果を還元
- 多様で卓越した「知」はイノベーションの創出や科学技術の発展にも寄与
- 雇用の在り方や働き方改革と高等教育が提供する学びのマッチング
- 「個人の価値観を尊重する生活環境を提供できる社会」に貢献

2040年頃の社会変化
国連・SDGs「全ての人が平和と豊かさを実現できる社会」
Society5.0 第4次産業革命 人生100年時代 グローバル化 地方創生

II. 教育研究体制 ... 多様性と柔軟性の確保 ...

多様な学生

- 18歳で入学する日本人を主な対象
- 実務家、若手、女性、外国籍などの様々な人材を登用できる仕組みの在り方の検討
- 脱却し、社会人や留学生在を積極的に受け入れる体質転換
- カレント教育、留学生交流の推進、高等教育の国際展開

多様な教員

- 文理横断・学修の幅を広げる教育、様々な人材を登用できる仕組みの在り方の検討
- 学位プログラムを中心とした大学制度、多数の大学等の人的・物的資源の共有、柔軟な教育の促進(研修、業績評価等)

多様な柔軟な教育プログラム

- 文理横断・学修の幅を広げる教育、様々な人材を登用できる仕組みの在り方の検討
- 学位プログラムを中心とした大学制度、多数の大学等の人的・物的資源の共有、柔軟な教育の促進(研修、業績評価等)

多様性を抑え止める柔軟なガバナンス等

- 各大学のマネジメント機能や経営力を強化し、大学等の連携・統合を円滑に進められる仕組みの検討
- 一国立大学一法人複数大学制の導入、経営改善に向けた指導強化・撤退を含む早期の経営判断を促す指導、国公私立の枠組みを越えて、各大学の「強み」を活かした連携を可能とする「大学等連携推進基金(仮称)」制度の導入、学外理事の登用

大学の多様な「強み」の強化

- 人材養成の観点から各機関の「強み」や「特色」をより明確化し、更に伸長

III. 教育の質の保証と情報公表 ... 「学び」の質保証の再構築 ...

全学的な教学マネジメントの確立

- 各大学の教学面で取組む取組に係る指針の作成
- 学修成果の可視化と情報公表の促進
- 単位や学位の取得状況、学生の成長実感・満足度、学修に対する意欲等の情報
- 教育成果や大学教育の質に関する情報
- 全国的な学修調査や大学研究者による「学修」の把握・公表の義務付け

設置基準の見直し

- 定員管理、教育手法、施設設備等について、時代の変化や情報技術、教育研究の進歩等を踏まえた本格的な見直し
- 認証評価制度の充実(法令違反等に対する厳格な対応)
- 教育の質保証システムの確立

IV. 18歳人口の減少を踏まえた高等教育機関の規模や地域配置 ... あらゆる世代が学ぶ「基盤」 ...

高等教育機関への進学者数とそれを踏まえた規模

- 将来の社会変化を見据えて、社会人、留學生を含めた「多様な価値観が集まるキャンパス」の実現
- 学生の可能性を伸ばす教育改革のための適正な規模を検討し、教育の質を保證できない機関へ移行評価
- 【参考】2040年の推計
 - ・18歳人口:120万人(2017) → 88万人(現在の74%の規模)
 - ・大学進学者数:63万人(2017) → 31万人(現在の80%の規模)

地域における高等教育

- 複数の高等教育機関と地方公共団体、産業界が各地域における将来の議論や具体的な連携・交流等の方策について議論する体制として
- 地域連携プラットフォーム(仮称)を構築

V. 各高等教育機関の役割等 ... 多様な機関による多様な教育の提供 ...

- 各高校種(大学、専門職大学・専門職短期大学、短期大学、高等専門学校、専門学校、大学院)における特有の課題の検討
- 転入学や編入学などの各高等教育機関間の接続を含めた流動性を高め、より多様なキャリアパスを実現

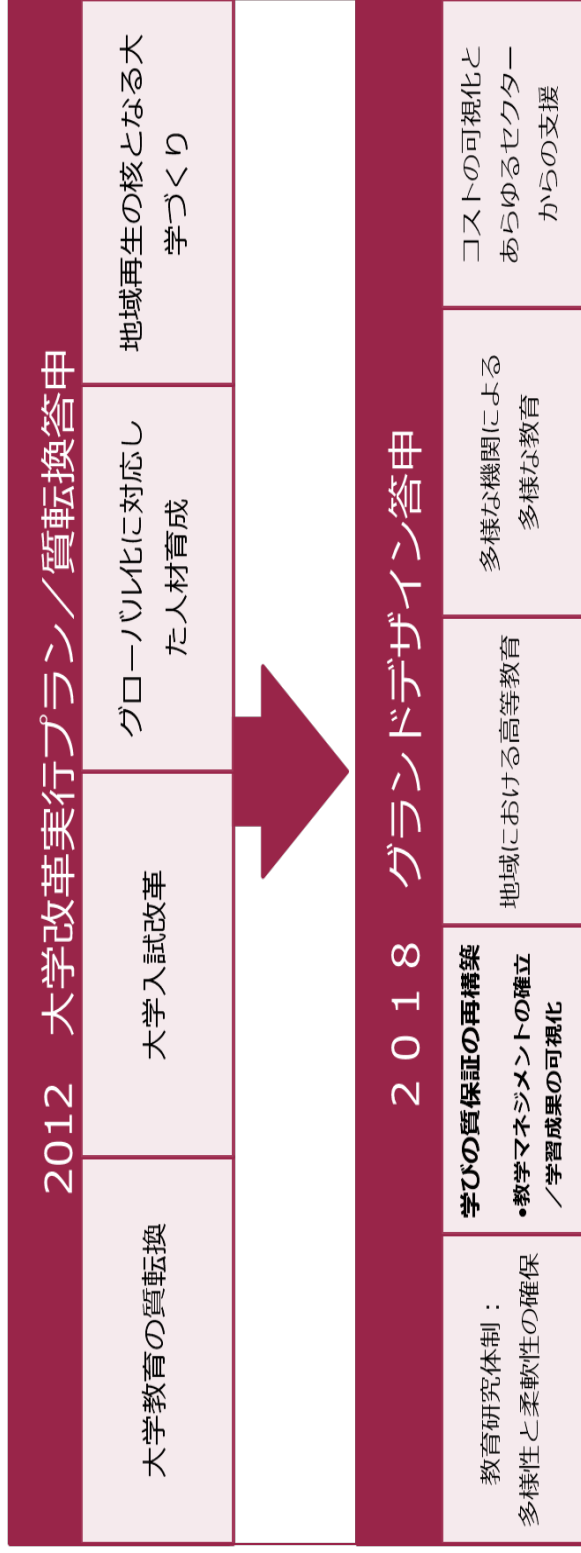
VI. 高等教育を支える投資 ... コストの可視化とあらゆるセクターからの支援の拡充 ...

- 国力の源である高等教育には、引き続き、公的支援の充実が必要
- 社会のあらゆるセクターが経済的効果を含めた効果享受することを経詰めた民間からの投資や社会からの寄附等の支援も重要(財源の多様化)

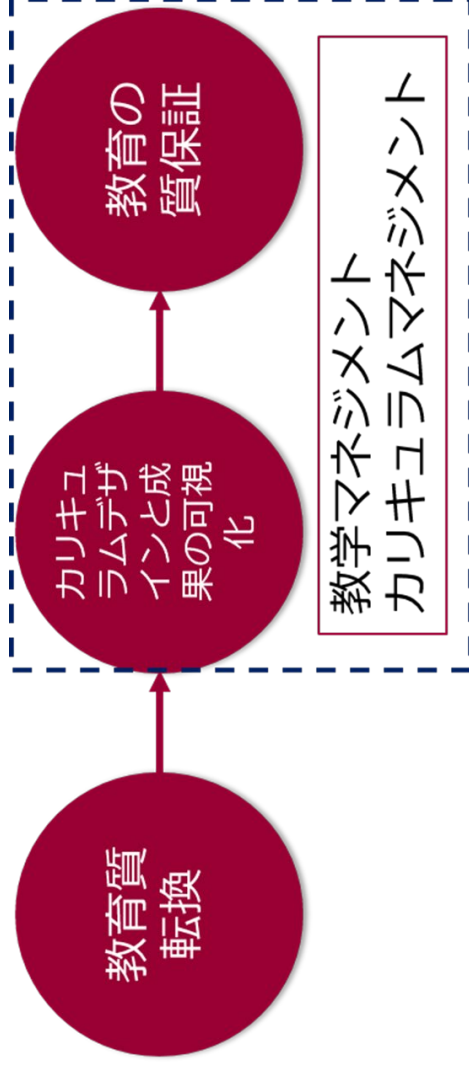
- 教育・研究コストの可視化
- 高等教育全体の社会的・経済的効果を社会へ提示

- 公的支援も含めた社会の負担への理解を促進
 - 必要な投資を得られる機運の醸成

大学教育改革の方向性



教育改革 トレンド の推移



(参考)高校における教育改革の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実



よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、**未来の創り手となるために必要となる資質・能力を育成**「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など
各教科科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す
学習内容の削減は行わない*

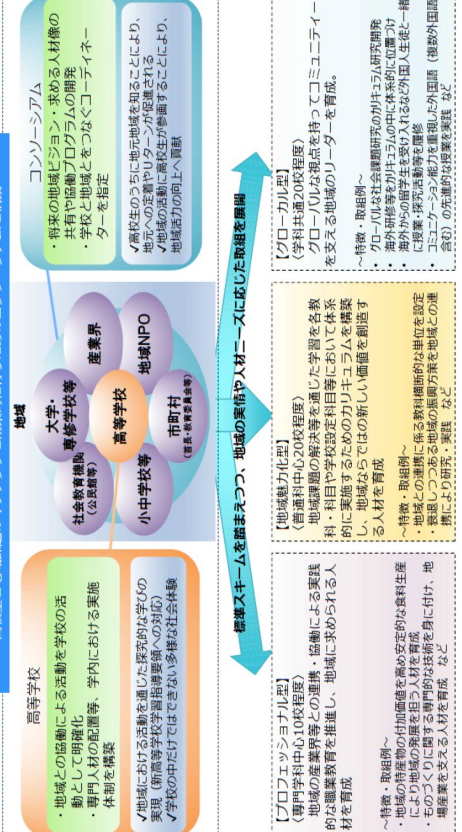
主體的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

主體的な学び
対話的な学び
深い学び

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

2019年度予算額（概） 251.0億円(前期)

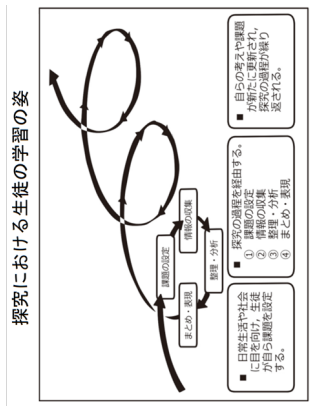
新高等学校学習指導要領を踏まえ、Society 5.0を地域から分厚く育てる人材の育成に向けた教育改革を推進するため、【経済的適応力と改革の基本方針2018】や「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」に基づき、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探求的な学びを支援する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。



総合的な探究の時間

探究の見方・考え方を働かせ、構造的・総合的な学習を行うことを通して、**自己の在り方生き方を考えながら**、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- (2) **実社会や実生活と自己との関わりから関心を見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現すること**ができるようになる。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、**新たな価値を創造し、よりよい社会を表現しようとする態度**を養う。

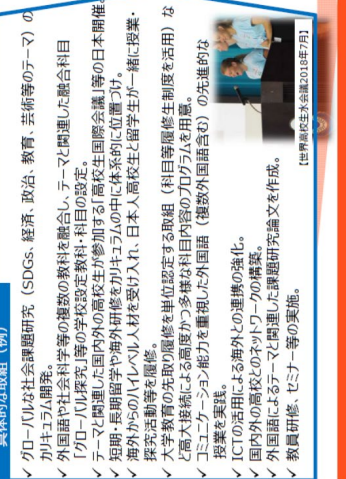


Society 5.0に向けたデザイン・プロジェクト WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業 (2019年度新規)

事業概要 21世紀のグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が連携し、高校生レベルの高度な学びを提供する仕組みを構築するとともに、テーマ等を共通した高校生国際会議の開催等や高等学校のデザイン・ラーニング・ネットワークの形成により、WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアムにおける拠点校を支援する。

具体的取組 (例)

- ▶ 国際会議の開催等による国際会議のネットワークの形成
- ▶ 海外からの高校生が参加する国際会議の開催
- ▶ 海外からの高校生が参加する国際会議の開催
- ▶ 海外からの高校生が参加する国際会議の開催
- ▶ 海外からの高校生が参加する国際会議の開催
- ▶ 海外からの高校生が参加する国際会議の開催



教学マネジメントについて (案)

資料3

中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第3回) H31.2.13

教学マネジメントとは

大学がその教育目的を達成するために行う管理運営。また、その確立に当たっては、学長のリーダーシップの下で、三つの方針(卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針)に基づき体系的で組織的な教育の展開、その成果の点検・評価を行い、教育及び学修の質の向上に向けた不断の改善に取り組むことが必要。

教学マネジメント指針とは

- 教学マネジメントの確立のため、各大学の教学面での改善・改革を促すため、その取組に際しての留意点等を網羅的にまとめたもの。(但し、特定の取組を強制するものではない。)
- 各大学の内部質保証のPDCAサイクルを推進し、大学が自ら策定した三つの方針に基づく教育取組を実効性あるものとするために必要な手法等について示すものであり、各大学においては、当該指針を参照しつつ、それぞれ責任の下、強みや特色も意識し、学修者本位の教育の質向上につながる具体的な方針を策定することが重要。

出典)2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申) 用語解説

教学マネジメント

以下のような教学マネジメントを、適切な体制の下、全ての学位プログラムにおいて横断的に確立

三つの方針

「自らの教育理念の実現に向け、どのような学生を受け入れ、求める能力をどのようなプログラムを通じて育成するか」

教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

学修目標の具体化

「卒業認定・学位授与の方針」(以下「DP」)において、

- ✓ 学修者と社会のニーズに応える、学位プログラムとしてふさわしい明確な目標設定
- ✓ 学生の学修目標として機能し、かつ大学が客観的に評価できる記述で規定

カリキュラムマップを活用

DPとシラバス(到達目標)の連結

授業科目・教育課程

- ✓ DPIに対して必要十分な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成
- ✓ DPとの関係が明らかでない科目は見直しや取りやめの場合により検討
- ✓ 細分化された授業科目の統合、同時に履修する科目数の絞り込み

こうした体系的な教育課程のもと、

成績評価

大学教育の質保証の根幹、学修成果の可視化の前提

- ✓ 達成水準とその測定手法の明確化
- ✓ 学外の信頼性および国際通用性の確保

最も重要な成績評価の情報に加え、

学修成果の把握・可視化

学位プログラムとしての学修成果

- ✓ 複数の情報により多元的に把握
- ✓ 対外的にわかりやすく表示

ループリリックの活用、GPAの信頼性確保
アセスメントテスト、パフォーマンス評価、「ディプロマ・サブリメント」

積極的な説明責任

情報公表

- ✓ 大学の序列化につながるならいよう、様々な情報を組み合わせることが必要
- ✓ 意義や活用の在り方、定義や数値の算出方法、わかりやすい公表方法を指針で提示

社会からの信頼と支援

FD・SD 教学IR

教学マネジメントを支える基盤

- ✓ F・D・S・Dの実質化、教学IRへの理解促進
- ✓ 経営層への研鑽化、教学IRへの理解促進

「学位プログラム」レベル

DPを効果的に実現する観点から、目的を踏まえて適切に実施

- 学生の理解促進 → カリキュラムツリー、シラバス
- 体系性の明確化 → カリキュラムツリー、オンパニング
- 学修の密度向上 → キャップ制、学事督の柔軟化

「個々の授業科目」レベル

積極的に課題を明らかにし、次のサイクルの改善に生かす

このような学位プログラムを構築するとともに、その成果を点検・評価するために、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などを制定

「大学の授業科目」レベル

積極的に課題を明らかにし、次のサイクルの改善に生かす

教学マネジメント確立のためのガイドライン（概要）

教育及び学修の質の向上に向けた不断の改善を促進するための教学マネジメントを確立し、教育の質保証の高度化を目指す。

▶ 高等教育の目指すべき姿として学修者本位の教育への転換が必須；

「何を教えたか」から「何を学び、身に付けることができたのか」への転換

▶ 学修者自らが学んで身に付けたことを社会に対し説明し納得が得られる体系的な内容の教育課程が必要

▶ 個々人の学修成果の可視化と大学全体の教育成果に関する情報の公表が不可欠

▶ 教学面での改善・改革に係る取組を促すための教学マネジメントの確立の支援が国の役割（指針策定）

教育と学修の質の向上に向けた取組が恒常的に行われるための全学的教学マネジメントを確立するうえで目指すべき方向性と取組課題、評価の観点をとめたガイドラインを策定し、学修者本位の教育の質保証を着実に推進していく

背景

教学マネジメントの確立に当たっては、各大学が学長のリーダーシップの下で、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学受入の方針（以下「三つの方針」）に基づき体系的で組織的な大学教育を展開し、その成果を学位を与える課程（プログラム）共通の考え方や尺度*に則って点検・評価すること、不断の改善に取り組みることが必要である。『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン』（中教審審申 2018.11）

目指すべき方向性（教学マネジメント指針（案）より）

「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- ◆ 学修者と社会のニーズに応える、学位プログラムとしてふさわしい明確な目標設定
- ◆ 学生の学修目標として機能し、かつ大学が客観的に評価できる記述で能力を規定
- ◆ 学修目標・学修内容が授与する学位にふさわしいものを大学が説明可能に

授業科目・教育課程の編成

- ◆ DPを効果的に実現する観点から体系的に教育課程を編成（マップ、ツリー活用）
- ◆ 密度の高い主体的な学修を可能とするための科目の精選、学事歴柔軟化等
- ◆ 学生の希望や学修の進捗を踏まえた体系的履修を促すきめ細やかな履修指導

授業設計・実施

- ◆ 能動的学修（アクティブ・ラーニング）の適切な活用
- ◆ 多様な学習形態実施、多様な学び（「考える」「話す」「行動する」）をもちろす工夫
- ◆ 学生が主体的に授業準備や事後の展開を行うために、事前に必要な学修内容・時間をシラバスに明記

成績評価

- ◆ 客観的な達成水準に基づく厳格な成績評価
- ◆ 学修意欲を高めるために達成水準を事前に「ルーブリック」等で明示
- ◆ 学外の信頼性確保のためにGPAの算定方法・分布を開示

学修成果の把握・可視化

- ◆ 各学生がDPが定める能力を身に付けることができたかを実感し、エビデンスをもって説明できるように、また、大学が教育課程の改善に活用できるように学修成果を把握・可視化
- ◆ 学位プログラムとしての学修成果把握のために複数の評価を多元的に活用

教学マネジメントを支える基礎

- ◆ 教員・職員の能力向上のためのFD・SDの実質化
- ◆ 学生による授業アンケートや教育業績記録ファイル（フィードバックレポート/フォロ）]等をFDで活用
- ◆ 教学IR体制の確立

情報公表
(大学の教育成果・
学生の学修成果)

取組むべき課題

- ・ 学生の学修目標、卒業生の能力保証として機能するDPPのあり方の検討（適切な設定、提示、確認の方法等）

- ・ DP実現に有効なカリキュラム構成の検討（カリキュラムマップ、ポリシーの適切性）
- ・ 学生の学修意欲を保ち、密度の高い主体的な学修を可能とする具体策検討（科目の精選、履修指導充実、学事歴等）

- ・ 学修の質を高める授業の促進（ALの成果検証と質改善、授業評価アンケート活用等）
- ・ 授業外学修の促進（シラバスへの事前課題明記等）

- ・ 信頼性を高める成績評価のあり方の検討（厳格な成績評価と平準化、公表等）
- ・ 学修意欲を高める評価基準の事前提示（ルーブリック等）の導入検討

- ・ 学生が能力獲得を実感し説明できるような学修成果の把握と可視化のあり方の検討（ルーチャート・3C型到達度チェックシート）
- ・ 改革、各種アンケートの分析・活用
- ・ 教育プログラムとしての学修成果把握のための多面的な評価法活用（パフォーマンス評価、学修レポート/フォロ等）
- ・ 学修支援の高度化・対外的表示法検討

- ・ 教員の教育力向上に結び付く体系的FDの構築と推進
- ・ 個々の教員の教育改善の記録と組織的活用方策の検討

教学マネジメント確立に向けた取組の視点

1. PDCAサイクルの4つのレベル

- ◆ 個々の授業科目・教育プログラム、組織（学部等）、大学全体、のそれぞれ単位でPDCAサイクルを機能させる

2. 適切な取組課題と工程表による着実な実施

- ◆ データに基づく現状把握
- ◆ 実効性ある取組課題の設定
- ◆ 工程表作成による計画的実施

3. 明確な担当体制

- ◆ 理事の総括と教育戦略企画チームの方針決定の下、同チーム、大学教育推進機構、教務委員会（全学・学部）の協力による機動的な取組
- ◆ 教育プログラム会議による定期的な教育プログラム評価の実施
- ◆ 教員ごとの授業・教育改善の促進

4. アセスメントポリシーの作成

- ◆ 大学共通の評価方針としての「アセスメントポリシー」を制定し、これに則って教育・学修活動や成果の点検・評価を行う

5. 教学IR体制の整備

- ◆ 現状把握や点検・評価に必要なデータ・情報の提供、大学全体の教育成果や学修成果等の情報公表を適切に行うために教学IR体制を整備する

教学マネジメント特別委員会

教学マネジメントについて (案)

教学マネジメントとは

大学がその教育目的を達成するために組織的に行う管理運営。また、その確立に当たっては、学長のリーダーシップの下で、三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学受入の方針）に基づき体系的に行う。その成果の点検・評価を行い、教育及び学修の質の向上に向けた取組が必要。

教学マネジメント指針とは

- 教学マネジメントの確立のため、各大学の学修面での改善・改革を促すため、その取組に際しての留意点等を網羅的にまとめたもの。（但し、特定の取組を強制するものではない。）
- 各大学の内部評価保証PDCAサイクルを推進し、大学が自ら策定した三つの方針に基づき教育取組を果敢性あるものとするために必要な手法等について示すものであり、各大学における、当該指針を参照しつつ、それぞれの責任の下、強みや特色も意識し、学修者本位の教育の質向上につながる具体的な方針を策定することが重要。

教学マネジメント

以下のような教学マネジメントを、適切な体制の下、全ての学位プログラムにおいて構造的に確立し、**「大学全体レベル」「学位プログラムレベル」「学修者個人レベル」**の三つの方針に基づき、**「自らの教育理念の実現に向け、どのような学生を育てたいか、求める能力をどのようなプログラムを通じて育成するか」**を明確に定め、**「卒業認定・学位授与の方針」(以下DP)において、**

- ✓ 学修者と社会とのニーズに応える、学位プログラムとしてふさわしい明確な目標設定
- ✓ 学生の学修目標として機能し、かつ大学が客観的に評価できる記述で規定

学修目標の具体化

カハコリマップを活用
DPに対して必要十分な修業科目を開設し、体系的に教育課程を構成
✓ DPとの関係が明らかでない科目は見直しや取付けを場合により検討
✓ 細分化された授業科目の統合、同時に履修する科目数の取り込み

授業科目・教育課程

「個々の授業科目レベル」
大学教育の質保証の根幹。学修成果の可視化の前提
✓ 達成水準との測定手法の明確化
✓ 学外の信頼性および国際通用性の確保
最も重要な成績評価の情報に加え、
ルーブリックの活用、GPAの原級記録

成績評価

「個々の授業科目レベル」
体系的に課題を明らかにし、次のサイクルの改善に生かす
このように学位プログラムを構築するとともに、その成果を点検・評価するために、適切な評価方法と具体的な評価方法を決定

学修成果の把握・可視化

学位プログラムとしての学修成果
✓ 複数の情報により多元的に把握
✓ 対外的に分かりやすく表示
AP/BS/MS/PhD、ハコモノ・実績値、「タイプロム・サブリスト」

情報公表

積極的な説明責任
✓ 大学の序列化につながるような、様々な情報を組み合わせた必要
✓ 意義や活用方法の在り方、意義や数値の算出方法、わかりやすい公表方法を指針で提示

積極的な説明責任

社会からの信頼と支援
FD-SD 教学IR
✓ F5の国際認定、カハコリマップ、シラバス
✓ 履修率の把握、学習の記録、学習の振り返り、学習の振り返り、学習の振り返り

FD-SD 教学IR

システムを定めた卒業
この要質化、教学IRへの理解促進

- 全ての取組はDPから始まる
- ◇ 学生の学修目標として機能、客観的に評価できる記述
- ◇ DP自体が具体的な能力なのか、DPから具体的な指標を作るのかの議論がある

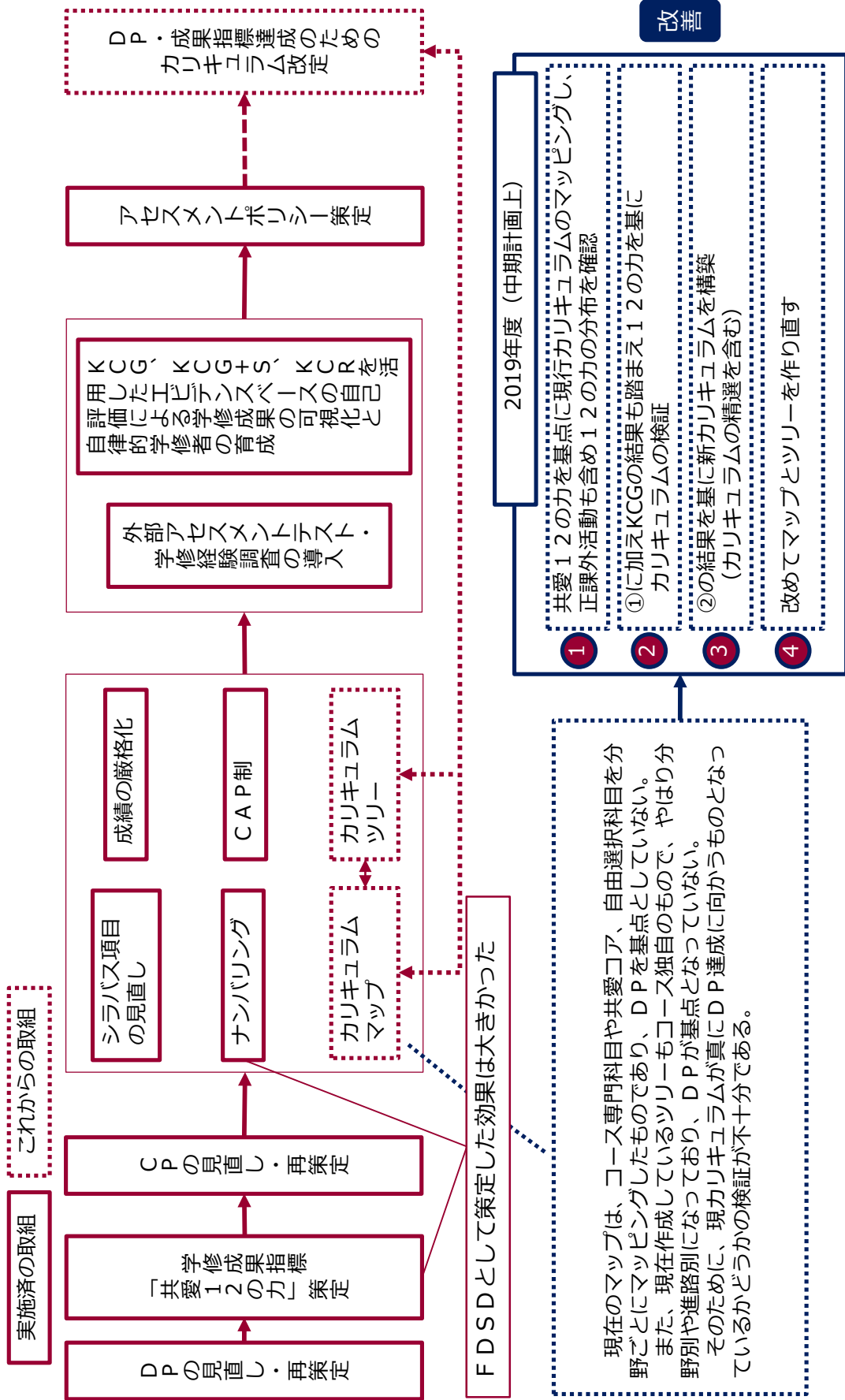
- カリキュラムはDP達成のためにデザインされる = 科目はスリム化される
- ◇ DPとの関係が不明な科目の見直し
- ◇ 週二回開講など
- ◇ カリキュラムマップ・カリキュラムツリー

- 各授業のアセスメントポリシーがDPと紐づいているか

- FDもSDもDPが出発点であり、DPを達成するためによいような人材が必要かによって人材育成方針も変わってくるはず。

- DPの達成を可視化できるか
- ◇ DPは各大学で異なるのだから、それを可視化するための指標や方法は各大学で異なるはずである。⇨大間観共通の指標がないと比較検討できない。
- ◇ 原則として直接評価であるべきだが、間接評価を総合して可視化していく
- ◇ 直接評価の評価者は学生であることもある。ただし、評価者として学生が成長する必要がある。

共愛学園前橋国際大学における教学マネジメントの進捗状況



※KCG=KYOAI Career Gate ※KCG+S=KYOAI Career Gate Showcase ※KCR=KYOAI Common Rubric

共愛学園前橋国際大学 シラバス項目と記載要領抜粋

受講後何が達成されるか、何が出来るようになるのかを記載してください。

科目NO.	□□□	科目名	■■■■■
教員名	■■■	開講学期	■■■ ●
概要	△△△△△△△△△△		
到達目標	△△△△△△△△△△		
「共愛12の力」との対応			
識見	自律する力	コミュニケーション力	問題に対応する力
共生のための知識	○ 自己を理解する力	○ 伝え合う力	○ 分析し思考する力
共生のための態度	○ 自己を抑制する力	○ 協働する力	○ 構想し実行する力
グローバルマインド	主体性	○ 関係を構築する力	○ 実践的スキル
教授法及び課題のフィードバック方法	○ サービラーニング		
アクティブラーニング	○ 課題解決型学修		
受講条件・前提科目	△△△△△△△△△△		
アセスメントポリシー及び評価方法	△△△△△△△△△△		
教材	■■■■■	参考図書	■■■■■
内容スケジュール	1 週目		
授業学修内容	△△△△△△△△△△		
授業外学修内容	△△△△△△△△△△		
(2週目～15週目は省略)			
上記の授業外学修時間の合計	○○時間	その他に必要な自習時間	○○時間
English Ver.			

「共愛12の力」との対応とは、授業での学びのプロセスを通して、学生が身につけることができる可能性のある力です。学生はシラバス上で示された各教科における力を、ポートフォリオで12の力の毎の一覧として確認し、その総体として自らの力をルーブリックで評価します。12の力のうち概ね4～6選択してください。

授業の進め方について具体的に記載するとともに、課題や質問に対してどのように対応、フィードバックするのかについても記載してください。

※Moodleを利用する場合はその旨を明記してください。

※All English で実施する授業はその旨を明記してください。

授業の成果としての学生の学修を測定する方法について、目標が達成されたかどうかをどのように判断するのかを学生が分かるように記載してください。また、評価の目的や達成すべき水準についても明記してください。

(例) 授業への参加度20%、レポート30%、定期試験50%

(例) 講義内容に関する知識習得度と資料を読み取る力を学期末テストにおいて評価する

(例) グループワークでは、課題理解度、チームへの貢献度主体性、リーダーシップを総合的に評価する

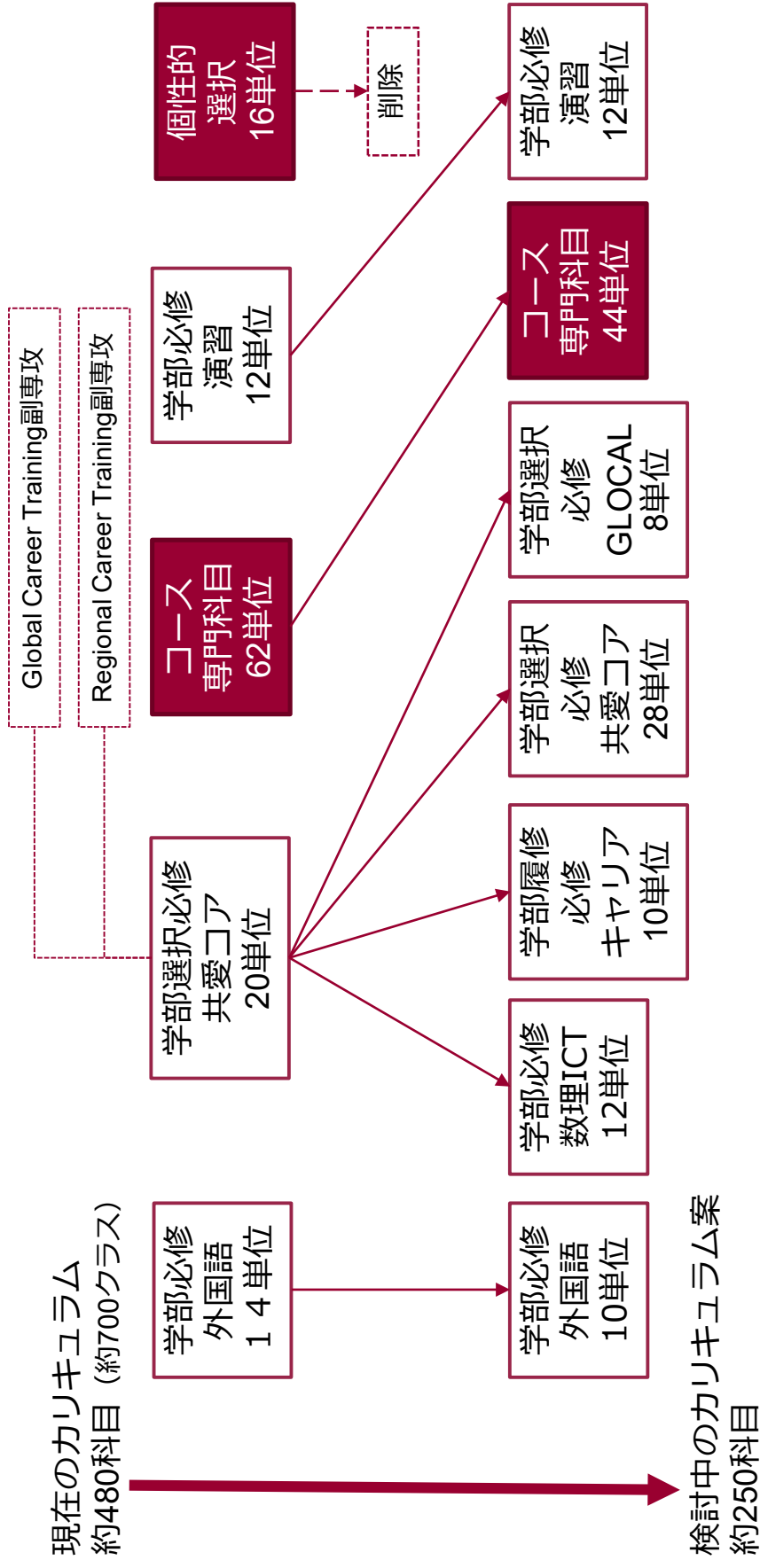
TOPIC

- シラバスをポートフォリオに取り込むことで、教員がチェックした「共愛12の力」で学生が当該力が身につくとされた履修科目を検索することができ、自己評価に活用できる。また、授業アンケートで学生にも「共愛12の力」のうち身についた力を聞くことで、教員の意図と学生の自己評価の整合性を確認できるようにしている。
- シラバスの点検は、コース長（並びにコースメンバー）が担当領域科目を分担して実施している。

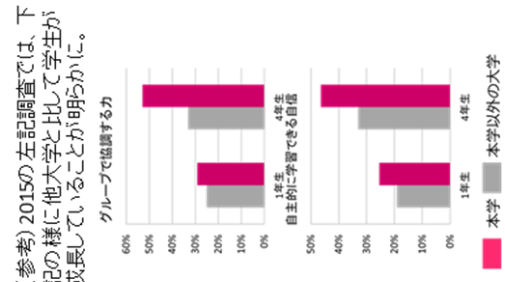
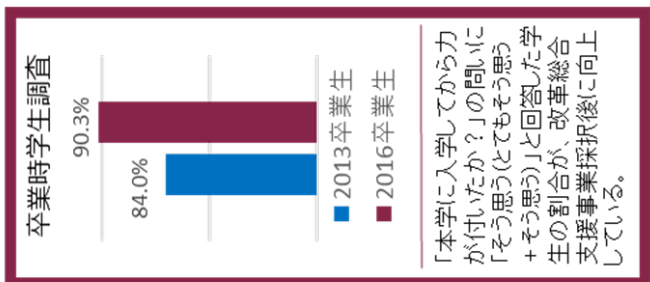
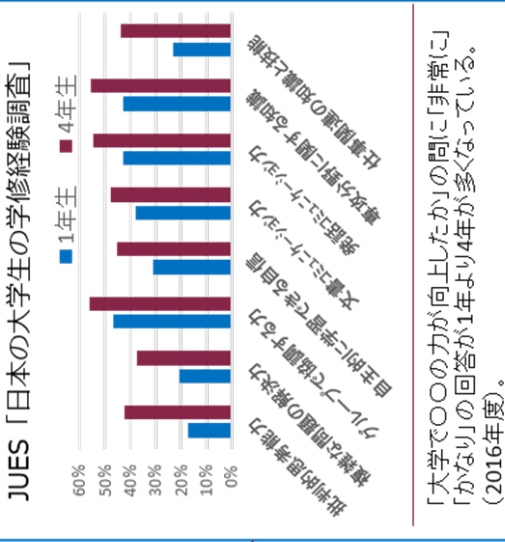
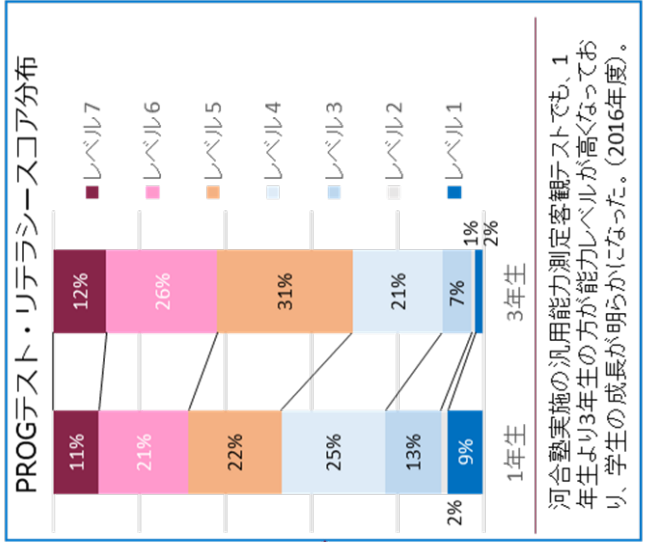
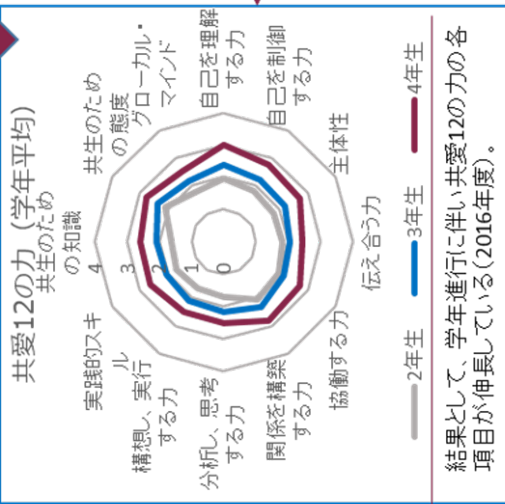
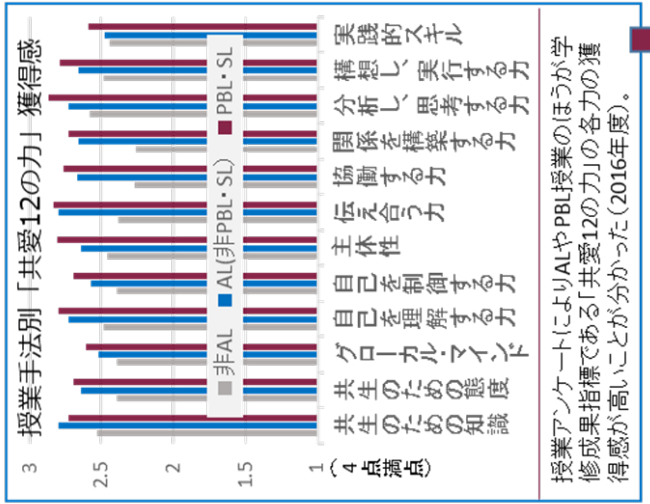
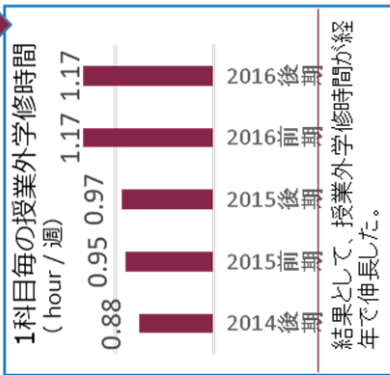
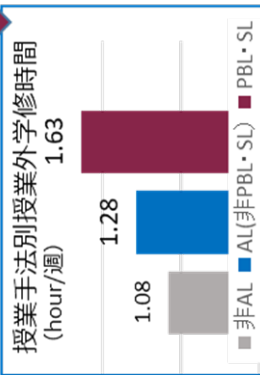
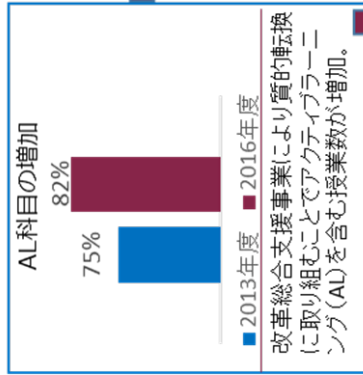
課題

- 科目単位のアセスメントポリシーにおいて、非常勤講師の先生も含めまだまだ共通理解が図れておらず、その精度や深度は多様であるし、「共愛12の力」(=DP)の獲得/到達に係る科目単位のアセスメントについても十分ではない。

共愛学園前橋国際大学 DP達成のためのカリキュラム改革(進行中)

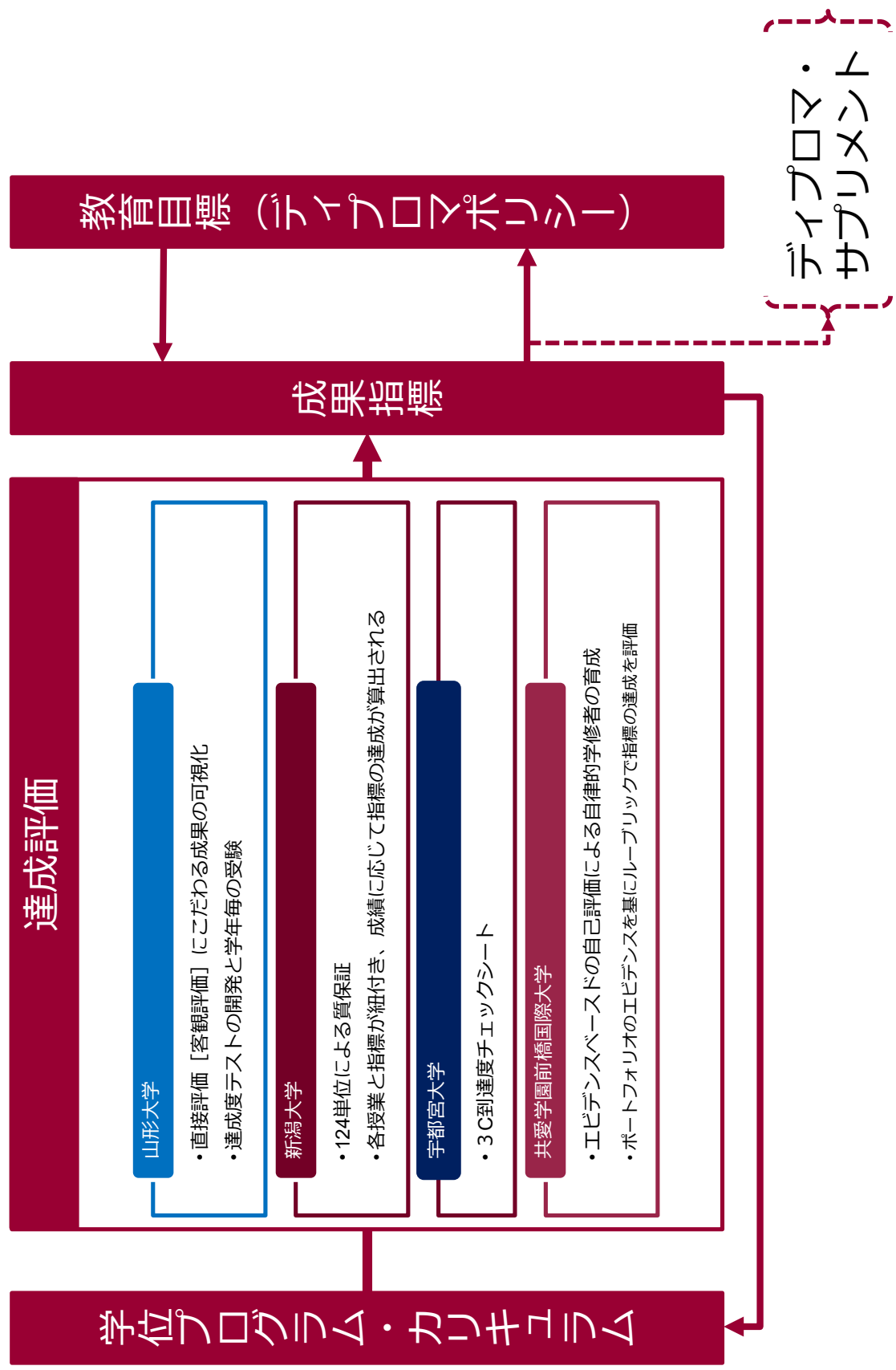


共愛学園前橋国際大学 教育成果の可視化の努力



学修成果の可視化の視点と取組

様々に試行されている学修成果の可視化の取組



意見1:学修成果可視化の主体はだれなのか

① 学生が行う学修成果の把握と可視化

学修成果の可視化は、学生自身が行うために行うものであるべきではないでしょうか。

予測困難な時代の中で生涯学び続けなければならない学生たちには、自らの学びの成果を自ら言語化し、可視化し、意味づけしながら、学びを通して自己をプロデュースする**自律的な学修者**へと成長することで、幸福な生涯を生きてほしいと願います。そのためだけに大学は運営されていると言ってもよいはずです。

そうすると、学修成果を可視化するには、学生自身による成果の把握(評価)が必須です。また、学生個々の成長の360°を大学(教職員)が評価することはできないでしょう。(学位プログラムと正課外活動等との関係の整理が必要ですが、大学生生活全体で学生は成長するものであるし、そういう大学でもあるべきでしょう。)

よって、大学には、学生による自らの学びの把握と可視化を支援する仕組みを整えることが求められるのではないのでしょうか。

※この点において、共愛学園前橋国際大学が展開するKYOAI Career Gateという仕組みは参考になると自負します(後掲)

教学マネジメントに係る指針に盛り込むべき主な事項(④学修成果の把握・可視化)の記述

- 学修者本位の教育の観点から、一人一人の学生が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた到達目標の達成度をエビデンスと共に自ら説明ができるようにすること……
- 一人一人の学生が学修成果を自ら説明することを可能とし……
- 一人一人の学生がより具体的に自らの学修成果を説明することを可能にしてゆく……
- 一人一人の学生が、自らの学修活動等を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身に付けていることを自ら説明できるようにすることが重要である。

② 大学が行う教育成果の把握と説明

教育成果は、学修成果がなされて初めて把握可能となるものではないのでしょうか。

教育成果は、学生自らが把握した学修成果に基づくものであり、学生自身が成果があがっていないと評価しているのに、大学が教育成果があるということとはできないと思います。大学はまた、その成果を生み出した背景やその成果の整合性について、間接評価も用いながら、教育の質を明らかにし、説明するものであり、そのことを通して、大学は、学生に対して、そして社会に対して質保証と説明責任を果たしていくことになるのではないのでしょうか。

教育成果を、学修成果を基にして把握し、その背景や整合性を含めて説明責任を果たすことは、社会的な責務を果たすことのみならず、大学自身のいわゆる「生き残り」にとって最も重要なことであるということも大切な視点だと心得ています。

教学マネジメントに係る指針に盛り込むべき主な事項(④学修成果の把握・可視化)の記述

- ……能力を備えた学生を育成できていることを、エビデンスと共に説明できるようにする……
- ……大学が対外的に教育成果を説明するとともに、教育活動の改善を図る……

付随意見:現在の記述では、主語が曖昧だったり、混在したりしているように感じるため、誰が誰の何のために行うのかを明確にすべきではないでしょうか。

—KYOAI CAREER GATE—

4年間の主体的な学習とその成果を目に見える形で積み上げ、キャリアにつなげる。

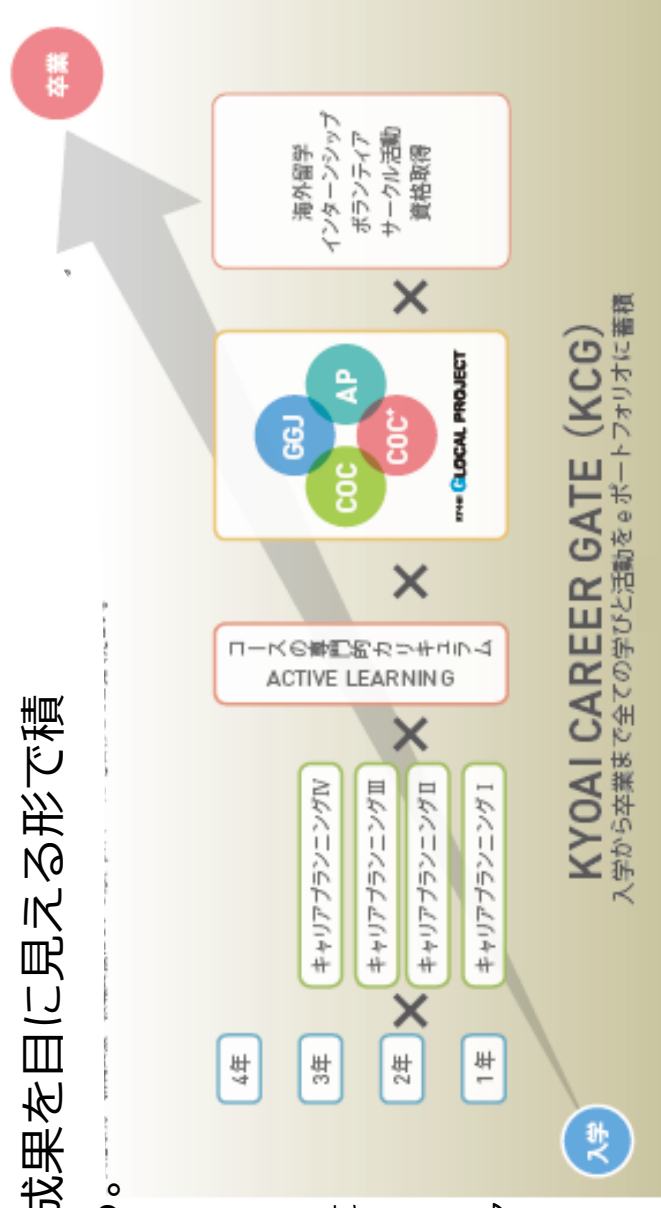
4年間に出会うたくさんの学びと活動。その一つ一つを、eポートフォリオである

KYOAI CAREER GATE

に蓄積し、自分の学習を振り返りながら、それをエビデンスとして、学習成果指標に基づき成果の自己評価と可視化をします。さらに、その活動や成果を

SHOWCASE

を通して社会へと発信し、目ざすキャリアへと接続します。



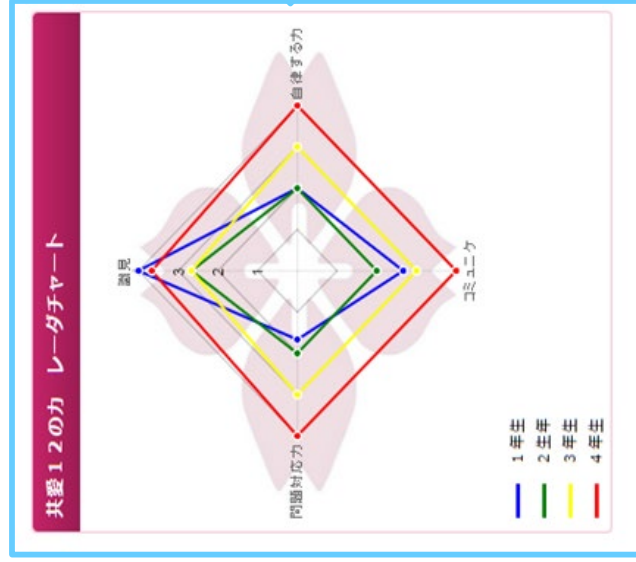
4年間の学修で身に付ける4つの軸と12の力 (学修成果指標)

識見	■ 共生のための知識	■ 共生のための態度	■ グローバル・マインド
自律する力	■ 自己を理解する力	■ 自己を制御する力	■ 主体性
コミュニケーション	■ 伝え合う力	■ 協働する力	■ 関係を構築する力
問題に対応する力	■ 分析し、嗜好する力	■ 構想し、実行する力	■ 実践的スキル

SHOWCASE (KCG+S)

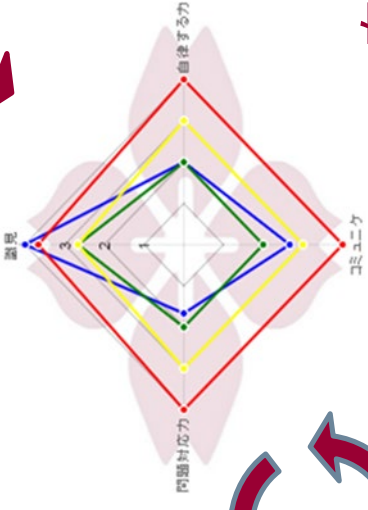
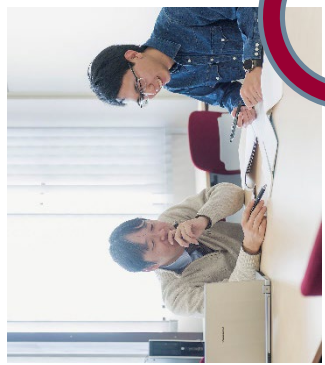
KCGに蓄積した成長の記録を公開履歴書としてキャリアに接続

CAREER

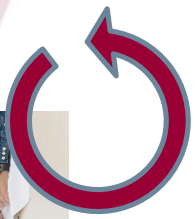


共愛学園前橋国際大学がめざす

エビデンスベースの自己評価による学習成果の可視化と自律的学修者の養成



- 学修活動の振り返り
- 学修計画の調整・改善
- 学修成果の総括



自己評価

リフレクション

評価規準

(コモンルーブリック)

エビデンスの蓄積

(ポートフォリオ：KCG)

共愛12の力にリンク

授業での学修

科目	振り返り
○○演習	・・・
△△学	・・・
□□概論	・・・

学内活動



学外活動



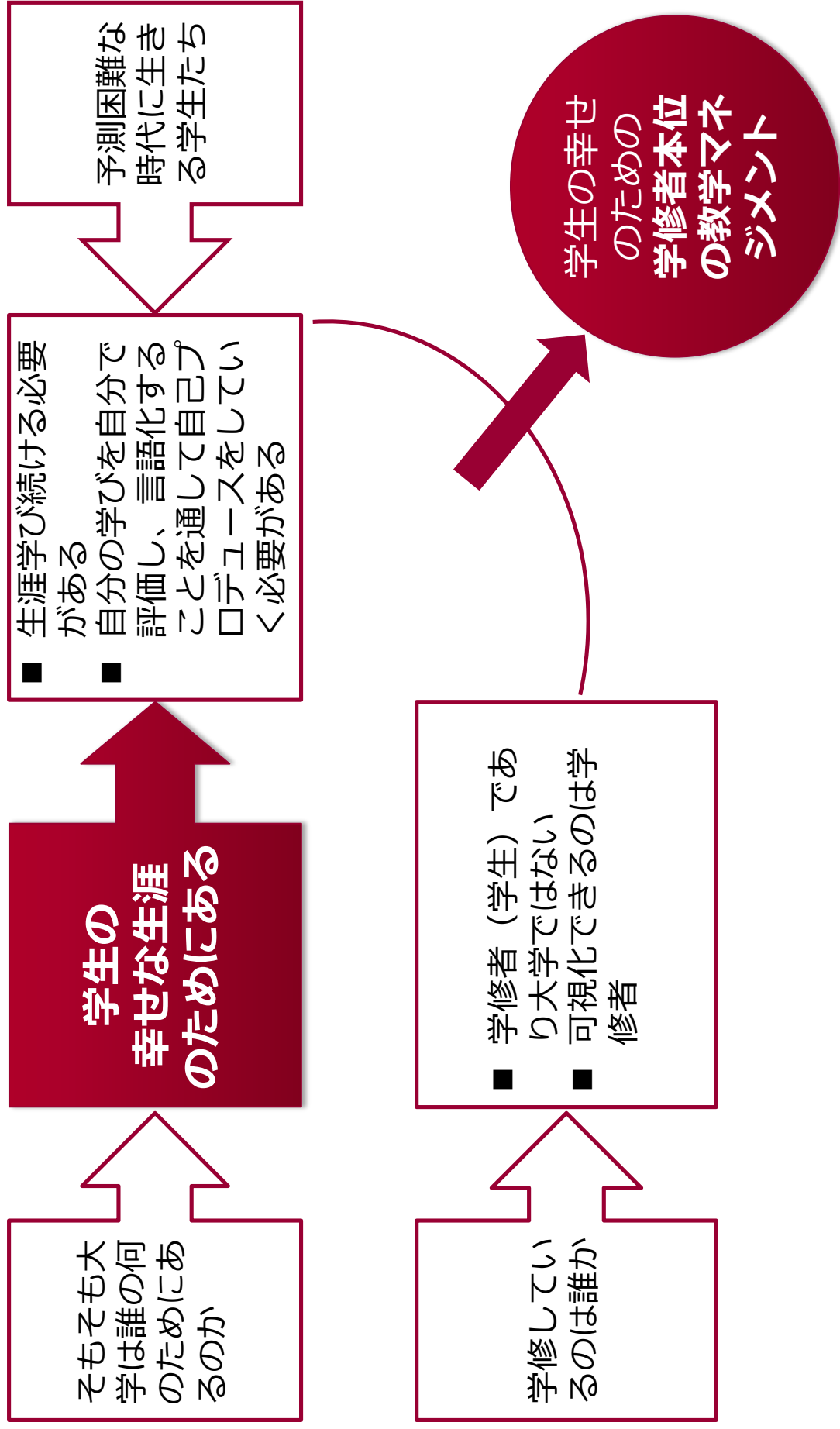
(参照)
外部テスト



共愛学園前橋国際大学コモモンループリリック

4の軸	12の力	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
識見	共生のため、共生の知識	共生のための社会的な知識を身に付けて、知識を組み合わせ、自分の言葉で説明することができる。	共生のための社会的な知識を身に付けて、知識を組み合わせ、自分の言葉で説明することができる。	所属するコースの専門的な知識を、外国語に関する体系的な知識の習得に努めている。	文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する体系的な知識の習得に努めている。
	共生の態度	多様な存在が共生し続けることを尊重する考えや行動	多様な存在が共生可能な社会のありかを探求し、行動し続けることができる。	多様な存在が共生する社会の中で、授業や活動を通じて、自分が存在で構成されていることを理解し、多様性を尊重する気持ちを持っていくことができる。	自分の態度や信念は他の文化やコミュニケーションの態度や信念とは異なっているという自覚をもっている。
自律する力	グローバル・マインド	地域社会と国際社会の関わりを捉え、両者をつなぐことで、地域社会の発展に貢献する姿勢	地域社会と国際社会の関わりについて、様々な学びを通じて、主体的に考えることができる。	母国以外の政治・経済・文化・社会・歴史について知りたいたいという意欲がある。	自らの暮らし、学びの場である地域の経済・文化・社会・歴史について知りたいたいという意欲がある。
	自己を制御する力	自己の理解、強みや弱み、成長を正確に理解する力	様々な経験を通じ、強みや弱み、成長を客観的に理解し、長を伸ばすことができる。	自らの興味関心や特徴、長所や短所、自分の興味関心のありかを確認し、授業や活動を通じて、自分の興味関心のある分野について知りたいたいという意欲がある。	授業や学内外の活動を通じて、自分の興味関心のある分野について知りたいたいという意欲がある。
コミュニケーション力	伝え合う力	ストレスや感情の揺れ動きに適切に対処しながら、学びや課題に継続して取り組む力	ストレスや感情の揺れ動きに適切に対処しながら、大きな困難に挑戦し、自信がある。	達成困難な課題でも、最後まで粘り強く取り組むことができる。	設定した目標に向かって、取り組みることができる。
	協働する力	人からの指示を待つだけでなく、自らやるべきことを見つけ、行動する力	達成困難な課題であっても、解決するための方法を模索しながら、自ら取り組むことができる。	指示を待つだけでなく、自分の状況を判断した上で、自らすべきことを見つけ、行動している。	指示を待つだけでなく、何をすればよいか、するべきかを見つけている。
問題に対応する力	関係構築する力	コミュニケーションにおいて相手の意図を正しく理解し、自分の意図を効果的に伝える力	適切なコミュニケーションを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。	コミュニケーションの状況や相手の立場を考慮して、伝達方法を工夫することができる。	発言や文章の論点を正しく理解することができる。
	分析、思考する力	様々な情報を収集、分析し、論理的に思考して課題を解決する力	必要な情報を収集し、多面的に分析し、現実の課題について新たな課題を発見することができる。	相手の状況や立場を理解し、相手の状況や立場を考慮して、コミュニケーションを円滑に築くことができる。	自分の気持ちを一方的に伝えるだけでなく、マナーを守り、相手に対して敬意を払うことができる。
実践的スキル	構想し、実行する力	課題に対応するための計画を立て、実行する力	現実の課題を解決するために、必要な情報を収集し、現実の課題を解決するために、計画を立て、実行することができる。	立てた計画を確実に実行することができる。	取り組むべき物事に対して合理的な計画を立てることができる。
	実践的スキル	現代社会において必要な基本的スキルと自らの強みとなる実践的スキル	問題解決に役立つ様々なスキルを身に付け、問題に対応することができる。	学びに必要な基本的な事柄を自ら活用することができる。	学びに必要な基本的な事柄(コンピュータの使い方やレポートの書き方など)を理解している。

誰の何のための教学マネジメントか



令和元年度 宇都宮大学 全学FDの日

第 16 回 「宇都宮大学ベストレクチャー賞」
受賞者による実践報告

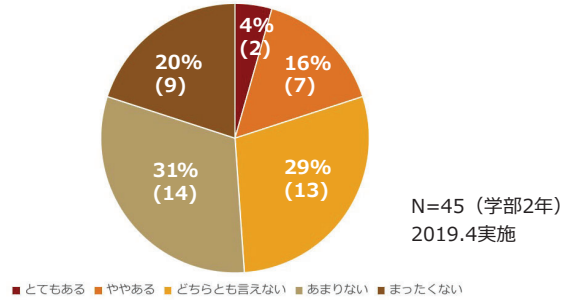
教育学部専門教育科目
教育学部 出口 明子 准教授

「初等理科教育法」の指導の実際

教育学部
出口 明子

非理科専攻学生の「理科を教える自信」

Q.小学校の理科を教えることに自信がありますか？



授業の目標

科学的な
知識・概念理解

科学的な
見方・考え方の
良さ・楽しさ

安全で正しい
観察・実験

学生自身が理解すること

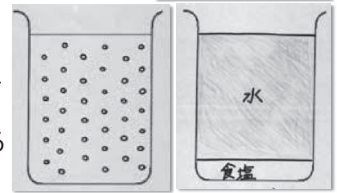
子どもが理解できるようにする
手立てを考えられるようにすること

指導の実際：子どもの自然認識とは？

- 子どもなりの自然事象の見方の特徴
- 誤概念から科学概念へ（概念変換の支援）



- まずは自分たちの自然認識を把握
- いろいろな考えがあることがわかる
- 誤りを含む考え方を科学的な考え方に変えないといけない
- 授業前に子どもの自然認識を知る必要性の理解



水に食塩を溶かしたときの描画

指導の実際：理科の問題解決とは？

- 理科の問題解決のプロセス，意義の理解

- 子どもの問題解決を体験
 - ・現象に出会う
 - ・課題を見つける
 - ・解決の方法を考える
 - ・予想を立てる（その理由も）
 - ・実験して結果を得る
 - ・考察する
- 科学的なプロセスの理解

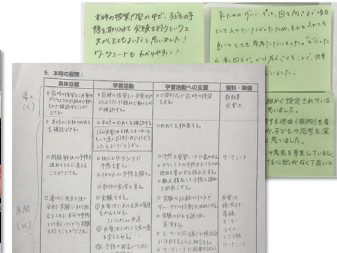


磁石につくもの・つかないもの

指導の実際：教材研究・指導案作成・模擬授業

- 教材研究と学習指導案作成のプロセス，意義の理解

- グループワーク + 机間指導 + 実践 + フィードバック
- イチから全部やってみる → プロセスの理解，少しの自信

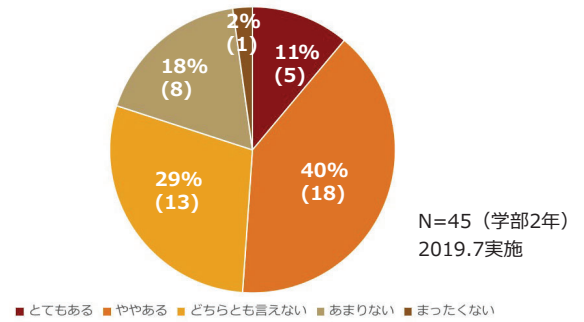


指導の実際：そのほか

- リフレクションシート（考えたこと）
- 予習復習シート
- 知識確認（全国学力調査など）

授業後

Q. 小学校の理科を教えることに自信がありますか？



今後

- クラス編成変更（受講者数増）への対応
- 実験・観察の充実，新教材への対応
→ 「アドバンスト小学校理科実験」へ
- 他教科の教育法との連携

令和元年度 宇都宮大学 全学FDの日

第 16 回 「宇都宮大学ベストレクチャー賞」
受賞者による実践報告

工学部専門教育科目
工学部 東口 武史 教授

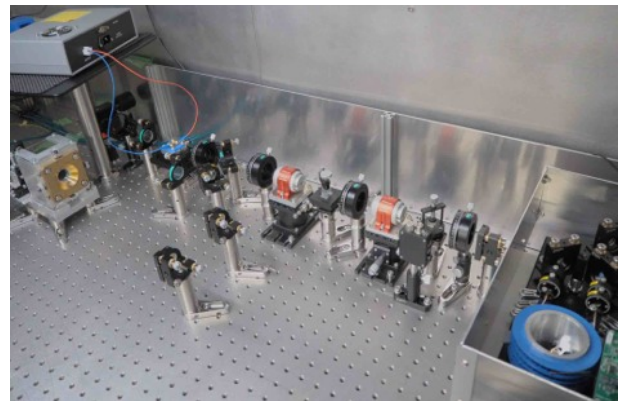
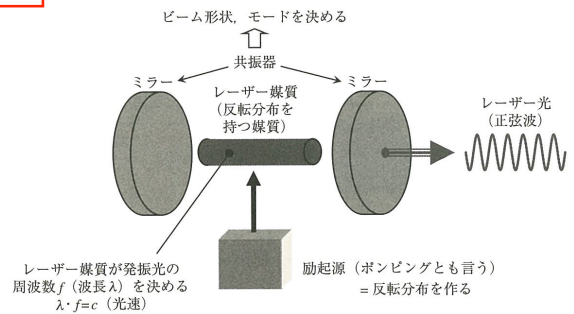
授業実践報告

工学部・東口 武史

高電圧工学

70名近く

レーザー工学



記述が雑なものを認めるの？

以前は赤を入れまくっていたけど・・・

赤ペン先生に効果はあるの？

自身も以前はそれが当たり前だと・・・

Peer Review

研究者にとっては当たり前ですが・・・

Reject / Strong Major

研究者もへこむわけで・・・

Peer Review

研究者にとっては当たり前ですが・・・

記述を改善・熟考させたい

令和元年度 宇都宮大学 全学FDの日

第 16 回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」
受賞者による実践報告

共通科目

基盤教育センター ローリー バンウェル 准教授

基盤教育センター 英語教育プログラムの HONORS CLASS

EPUU
(English Program for Utsunomiya University)

概要

- 1) Honors Student とは?
- 2) Honors Class とは?
- 3) アプローチ
 - 到達目標
 - 効果的な言語の授業
- 4) テーマ
 - 学生に関心があるテーマ
- 5) タスクとアクティビティ
 - コミュニケーションのパターンを学習する
 - アカデミックスキル重視

1) Honors Student とは？

- 英語教育プログラムではTOEIC により学生のレベル分けをする
- TOEIC 650 点以上のスコアを取得した学生はその時点で Honors Student として認定される

Honors Student

- 外国人留学生
- 帰国子女
- 中学高校などで、自分で海外留学した学生
- 日本で自分で英語を勉強して、高スコアをとった学生

Honors English

1 st YEAR	
Spring Semester	3 Credits (3 Advanced English classes)
Autumn Semester	3 Credits (3 Advanced English classes)
2 nd YEAR	
Spring Semester	1 Credit (1 Advanced English class)
Autumn Semester	1 Credit (1 Advanced English class)

英語教育の必修単位

Advanced Englishの授業でEPUUの必修単位を取得する (8 単位)

Honors English Class	(1 単位)
Honors Camp	(2 単位)

選択科目

2. Honors Class とは？

- Honors student だけ履修できる
- 何回も履修できる
- 少人数制
- 1年生～4年生履修できる

3) アプローチ Honors Classの到達目標

Students will use speaking, listening, reading, and writing to study English for academic purposes. It is designed to help students develop the necessary skills and international mindset to be able to work and live in today's global environment and to improve each student's English language skills for their own personal, academic, and professional requirements that are necessary for success in the future.

3) アプローチ 効果的な言語クラス

アクティブ・ラーニング重視

Purpose

コミュニケーションを目的とするタスクとアクティビティ

Collaborative learning

グループワーク用ペアワーク用コミュニケーションタスクとアクティビティ

4) テーマ 学生に関心のあるテーマ

- Issues in Education
- Japan's Falling Population
- Poverty
- Crime & Punishment
- Environmental problems
- Conflict
- Human Relationships
- Technology



5) タスクとアクティビティ コミュニケーションのパターンを学習する

- Giving an Opinion 意見を言う
- Agreeing with someone 賛成をする
- Disagreeing with someone (politely...) 反対をする
- Persuading / Negotiating 説得・交渉する

Giving an Opinion

Presenting your opinion to the class or in a debate follows a similar pattern to telling a story or giving a presentation. There is a beginning- the introduction, a middle-the body, and an ending- the conclusion.

• The introduction

To introduce your opinion

• The body

To give reasons for your opinion and to give any information that supports that opinion.

• The conclusion

To finish your speech with clarity and impact

For example:

In my opinion, Utsunomiya University is a very good place to study. I have three reasons to think this.

First, the university has the EPUU program. Students can learn to speak English well and improve their TOEIC score. The EPUU teachers are so kind, good-looking and intelligent as well.

Second, the campus is very beautiful. There are many trees, sports fields and lovely gardens.

Last, it is in the city of Utsunomiya. Utsunomiya has very delicious gyoza, it is a safe city, and the people are friendly.

These three reasons are why I think Utsunomiya University is a very good place to study. Udaï is wonderful.

5) タスクとアクティビティ アカデミックスキル重視

- **Presentations**
- **Debate**
- **Essays & Research Papers**
- **Poster Presentations**
- **Note-Taking and Summarizing**

HAPPY, ENGAGED STUDENTS



Conclusion

- 1) Honors Student とは?
- 2) Honors Class とは?
- 3) アプローチ
- 4) テーマ
- 5) タスクとアクティビティ

ありがとうございます

令和元年度 宇都宮大学 全学FDの日

「教育戦略企画チーム活動報告」

加藤 紀弘(教育戦略企画チームメンバー・教授)

酒井 一博(教育戦略企画チームメンバー・教授)

石井 和也(教育戦略企画チームメンバー・教務委員会委員・特任助教)

教育戦略企画チーム活動報告

令和元年9月20日（金）

担当
理事

池田宰(統括), 藤井佐知子

A班

授業科目・設計, 成績評価を担当

石井和也(基盤), 小澤好則(地デ), 加藤紀弘(工), 羽生直人(農)

B班

学修成果の把握・可視化を担当

石井和也(基盤), 横尾昇剛(地デ), 米山正文(国際), 酒井一博(教育), 大野和隆(学務)

特別
チーム

DPの再検討, レーダーチャート運用改善, 3C到達度チェックシート改善を担当

藤井佐知子(理事), 石井和也(基盤), 酒井一博(教育)

教学マネジメント確立のためのガイドライン（概要）

教育及び学修の質の向上に向けた不断の改善を促進するための教学マネジメントを確立し、教育の質保証の高度化を目指す。

背景

- ▶ 高等教育の目指すべき姿として**学修者本位の教育**への転換が必須；
「何を教えたか」から「何を学び、身に付けることができたのか」への転換
- ▶ 学修者自らが学んで身に付けたことを**社会に対し説明し納得が得られる体系的な内容の教育課程**が必要
- ▶ 個々人の**学修成果の可視化**と大学全体の教育成果に関する情報の公表が不可欠
- ▶ 教学面での改善・改革に係る取組を促すための**教学マネジメントの確立**の支援が国の役割（指針策定）

教育と学修の質向上に向けた取組が恒常的に行われるための全学的教学マネジメントを確立するうえで目指すべき方向性と取組課題、評価の観点等をまとめたガイドラインを策定し、学修者本位の教育の質保証を着実に推進していく

教学マネジメントの確立に当たっては、各大学が学長のリーダーシップの下で、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（以下「三つの方針」）に基づく体系的で組織的な大学教育を展開し、その成果を学位を与える課程（プログラム）共通の考え方や尺度*に則って点検・評価することで、不断の改善に取り組むことが必要である
『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン』（中教審答申 2018.11）

目指すべき方向性（教学マネジメント指針（案）より）

「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- ◆学修者と社会のニーズに応える、学位プログラムとしてふさわしい明確な目標設定
- ◆学生の学修目標として機能し、かつ大学が客観的に評価できる記述で能力を規定
- ◆学修目標・学修内容が授与する学位にふさわしいものを大学が説明可能に

授業科目・教育課程の編成

- ◆DPを効果的に実現する観点から体系的に教育課程を編成（マップ、ツリー活用）
- ◆密度の濃い主体的な学修を可能とするための科目の精選、学事歴柔軟化等
- ◆学生の希望や学修の進捗を踏まえた体系的履修を促すきめ細やかな履修指導

授業設計・実施

- ◆能動的学修（アクティブ・ラーニング）の適切な活用
- ◆多様な学習形態実施、多様な学び（「考える」「話す」「行動する」）をもたらす工夫
- ◆学生が主体的に授業準備や事後の展開を行うために、事前に必要な学修内容・時間をシラバスに明記

成績評価

- ◆客観的な達成水準に基づく厳格な成績評価
- ◆学修意欲を高めるために達成水準を事前に「ルーブリック」等で明示
- ◆学外の信頼性確保のためにGPAの算定方法・分布を開示

学修成果の把握・可視化

- ◆各学生がDPが定める能力を身に付けることができたかを実感し、エビデンスをもって説明できるように、また、大学が教育課程の改善に活用できるように学修成果を把握・可視化
- ◆学位プログラムとしての学修成果把握のために複数の評価を多元的に活用

教学マネジメントを支える基盤

- ◆教員・職員的能力向上のためのFD・SDの実質化
- ◆学生による授業アンケートや「教育業績記録ファイル（ティーチングポートフォリオ）」等をFDで活用
- ◆教学IR体制の確立

継続的なPDCAサイクルを実施

情報公表
(大学の教育成果・
学生の学修成果)

取組むべき課題

- ・学生の学修目標、卒業生の能力保証として機能するDPのあり方の検討（適切な設定、提示、確認の方法等）
- ・DP実現に有効なカリキュラム構成の検討（カリキュラムマップ・ポリシーの適切性）
- ・学生の学修意欲を保持、密度の濃い主体的な学修を可能とする具体策検討（科目の精選、履修指導充実、学事歴等）
- ・学修の質を高める授業の促進（ALの成果検証と質改善、授業評価アンケート活用等）
- ・授業外学修の促進（シラバスへの事前課題明記等）
- ・信頼性を高める成績評価のあり方の検討（厳格な成績評価と標準化、公表等）
- ・学修意欲を高める評価基準の事前提示（ルーブリック等）の導入検討
- ・学生が能力獲得を実感し説明できるような学修成果の把握と可視化のあり方の検討（レーダーチャート・3C到達度チェックシートの改善、各種アンケートの分析・活用）
- ・教育プログラムとしての学修成果把握のための多元的な評価法活用（パフォーマンス評価、学修ポートフォリオ等）
- ・学修支援の高度化・対外的表示法検討
- ・教員の教育方向上に結び付く体系的FDの構築と推進
- ・個々の教員の教育改善の記録と組織的活用案の検討

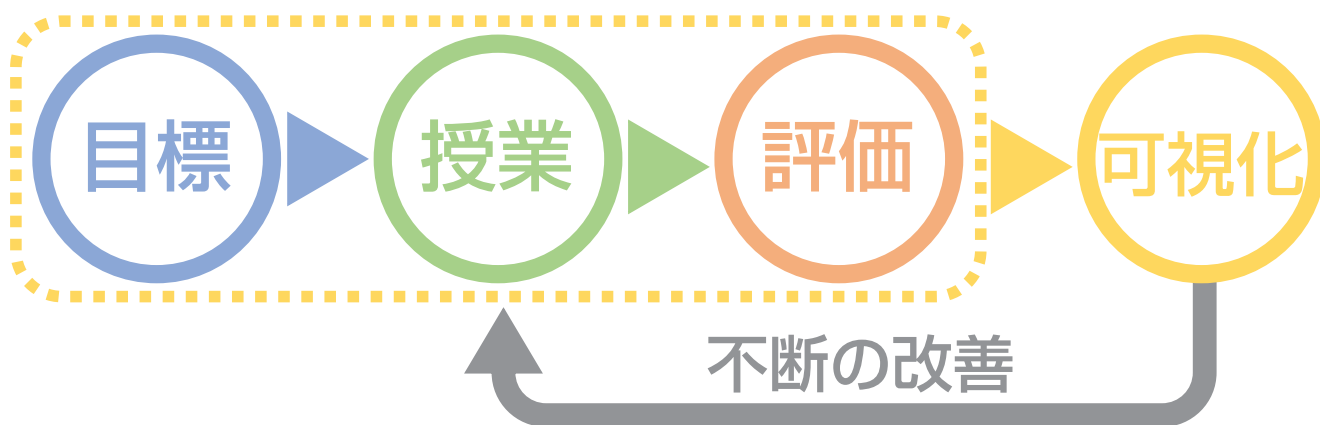
教学マネジメント確立に向けた取組の視点

1. PDCAサイクルの4つのレベル
 - 個々の授業科目、教育プログラム、組織（学部等）、大学全体、のそれぞれ単位でPDCAサイクルを機能させる
2. 適切な取組課題と工程表による着実な実施
 - データに基づく現状把握
 - 実効性ある取組課題の設定
 - 工程表作成による計画的実施
3. 明確な担当体制
 - 理事の総括と教育戦略企画チームの方針決定の下、同チーム、大学教育推進機構、教務委員会（全学・学部）の協力による機動的な取組
 - 教育プログラム会議による定期的な教育プログラム評価の実施
 - 教員ごとの授業・教育改善の促進
4. アセスメントポリシーの作成
 - 大学共通の評価方針としての「アセスメントポリシー」を制定し、これに則って教育・学修活動や成果の点検・評価を行う
5. 教学IR体制の整備
 - 現状把握や点検・評価に必要なデータ・情報の提供、大学全体の教育成果や学修成果等の情報公表を適切に行うために教学IR体制を整備する

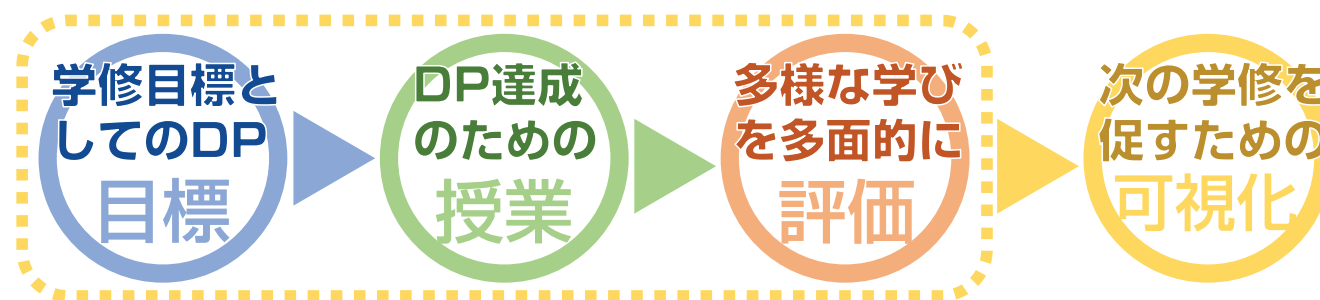
教育戦略企画チームのミッション

大学教育の質保証・向上

教育および学修の質の向上に向けた不断の改善を促進するための教学マネジメントを確立し、**学修者本位の教育**への転換を目指す。



学修者本位の教育のために



DPの再検討	教育プログラム検証 授業設計・実施の改善	ポートフォリオ改善 アンケート活用法検討	レーダーチャート改善 3C到達度 チェックシート改善
学修目標としての機能が弱い。また、専門的能力と汎用的能力の区分・バランスに課題がある。	学修の質保証と教育プログラムとの関連が曖昧である。また、DP達成に向けた多様な学びを促すための仕組みに課題がある。	学修支援機能を果たしうる自己評価・相互評価ツールが不十分。また、学生の実態を掴むためのアンケートの体系的に課題がある。	学修成果を正しく表示しているか疑問が残る。また、学修到達度の確認、次の目標設定、自己評価等に役立てることが困難。
宇都宮大学の学生に身に付けさせたい力の明確化 学生の日々の学修の目標となるDPの設定 汎用的能力を含め全学統一の分類	DPを達成するための教育課程の編成 学生に付けさせたい能力を培うカリキュラム(教育プログラム)および授業の設計(シラバス改善等) 基盤教育の全面見直し	多様な学びを多面的に評価する仕組み作り 達成目標の確認と自己・相互評価が可能なEポートフォリオの導入 学修意欲を喚起するためのルーブリックの活用	新・統合型 レーダーチャート作成 DPの達成度を正しく示し、次の学修を促すレーダーチャート(成長実感を持たせ学修意欲を促進するツール)の作成

A班からの報告



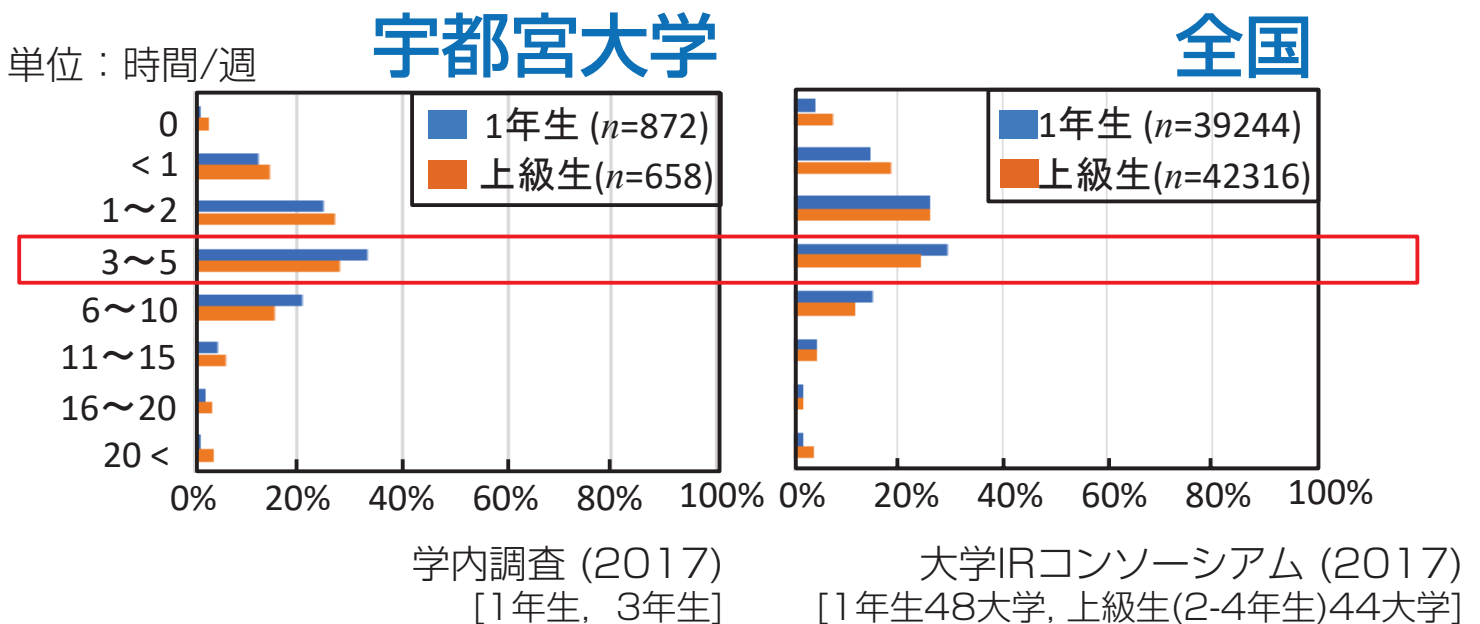
A班

授業科目・設計，成績評価を担当

石井和也(基盤)，小澤好則(地デ)，加藤紀弘(工)，羽生直人(農)

授業外学修時間の現状

出典:本学教学IR UIIR-Report010



シラバス記載事項の検討



- ◆能動的学修（アクティブ・ラーニング）の適切な活用
- ◆多様な学習形態実施，多様な学び（「考える」「話す」「行動する」）をもたらす工夫
- ◆**学生が主体的に授業準備や事後の展開を行うためのシラバスの改訂**

シラバス記載項目の充実化

授業計画（現行：15回にわたり具体的に記載）

新たに記載項目を追加

**授業時間外学修の具体的な指示
履修に必要な標準学修時間の記載**

シラバス記載案

授業時間外学修の内容と標準時間を具体的に記載

学習計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	授業計画	授業時間外学修（予習および復習）	標準学習時間
	第1回：完全気体、実在気体の性質	・ファンデルワールスの状態方程式 [第一章演習問題 1.36, 1.37]	40分
	第2回：実在気体の状態方程式	・気体の膨張仕事 [第二章演習問題 2.1, 2.2, 2.4, 2.7]	60分
	第3回：熱力学第一法則、気体の膨張	・H ₂ Oの状態変化 [第三章演習問題 3.6]	30分
	第4回：相転移、エンタルピー	・熱容量 [第二章演習問題 2.23, 2.24]	30分
	第5回：熱容量、マイヤーの式	・反応エンタルピー [第三章演習問題 3.31, 3.33, 3.34]	90分
	第6回：標準反応エンタルピーの温度依存性	・前半部分の復習 [第二章式の導出2.3, 2.4; 第三章 例題3.5]	20分
	第7回：前半部分の理解度の確認	・標準イオン化エンタルピー [第三章演習問題 3.7]	40分
	第8回：イオン化エネルギー、結合エネルギー	・標準反応エントロピー [第4章演習問題4.22]	30分
	第9回：熱力学第二法則、熱力学第三法則	・相転移に伴うエントロピー変化 [第4章演習問題4.15]	40分
	第10回：標準反応エントロピーの温度依存性	・標準反応エントロピー [第4章演習問題4.5, 4.8]	30分
	第11回：断熱過程	・プリント課題 [問1～4]	40分
	第12回：熱機関、カルノーサイクル		

学習計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	授業計画	授業時間外学修(予習および復習)	標準学習時間
	第1回: 生化学の基礎	教科書第1~2章の内容を予習するとともに、授業後は授業内容に関する復習を行う。	20分
	第2回: 生体分子(1)アミノ酸・ペプチド	教科書第4章の内容を予習するとともに、授業後は授業内容に関する復習を行う。	30分
	第3回: 生体分子(2)タンパク質		20分
	第4回: 生体分子(3)糖・補酵素	教科書第3, 6章の内容を予習するとともに、授業後は授業内容に関する復習を行う。	30分
	第5回: 生体分子(4)脂質・その他の生体分子	教科書第7章の内容を予習するとともに、授業後は授業内容に関する復習を行う。	30分
	第6回: 酵素(1)酵素の性質	教科書第5章の内容を予習するとともに、授業後は授業内容に関する復習を行う。	20分
	第7回: 酵素(2)酵素反応速度論		40分
	第8回: 遺伝情報の伝達と発現(1)核酸の性質	教科書第8章の内容を予習するとともに、授業後は授業内容に関する復習を行う。	20分
	第9回: 遺伝情報の伝達と発現(2)複製・転写		20分
	第10回: 遺伝情報の伝達と発現(3)翻訳		40分
	第11回: 代謝(1)解糖系	教科書第9-15章の内容を予習するとともに、授業後は授業内容に関する復習を行う。	30分
	第12回: 代謝(2)クエン酸回路		40分
	第13回: 代謝(3)脂質の代謝		30分
	第14回: 代謝(4)電子伝達系		20分
	第15回: 代謝(5)その他の代謝系		20分

授業の実情にあわせて数週をまとめて記載することも可

学習計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	授業計画	授業時間外学修(予習および復習)	標準学習時間
	第1週 説明・実験準備	<ul style="list-style-type: none"> 本授業のシラバスの内容を理解する。 安全の手引きを読んで理解を深める。 	30分
	第2週~第5週(個人実験) 4週にわたり、4テーマの個人実験を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 酸・塩基滴定 酸化還元滴定 キレート滴定 重量分析 	<ul style="list-style-type: none"> (予習) 実験テキストを読んで実験の目的・手順を理解し、予習問題を解答しながら、実験の流れや段取りをまとめる。 (実験結果の整理) 実験結果を整理し、簡潔かつ客観的にまとめる。 (関連資料の調査) 必要に応じて、図書館等で関連資料について調べる。 (レポート作成) 実験結果を図書や文献を参考にして考察し、実験レポートを完成させる。 	各週 120分
	第6週~第11週(グループ実験) 後半のグループ実験の説明と安全テストをしたのち、グループ実験を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 溶存酸素及び過マンガン酸カリウムによる酸素消費量の測定 吸光度法とイオンクロマトグラフ法による水質分析、溶媒抽出とデータ解析 硫酸銅五水和物の合成と組成分析 金属酸化物の合成とX線回折による格子定数の決定 酸化還元電位の測定と無電解めっき 金属イオンの系統分析 11~12. 確認・発展研究(2人1組) 	<ul style="list-style-type: none"> (予習) 実験テキストを読んで実験の目的・手順を理解し、予習問題を解答しながら、実験の流れや段取りをまとめる。 (実験結果の整理) 実験結果を整理し、簡潔かつ客観的にまとめる。 (関連資料の調査) 必要に応じて、図書館等で関連資料について調べる。 (レポート作成) 実験結果を図書や文献を参考にして考察し、実験レポートを完成させる。 	各週 120分
第13週 まとめ・後片付け			

グループにわかれて実施する学生実験の例

学習計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	授業計画	授業時間外学習（予習および復習）	標準学習時間
	（注意：進度などに応じて若干変更する場合がある） 本講義は次のような内容の講義と実習を含みます：①コーチングとは何か、②コーチングの進め方、③コーチングスキル（傾聴・承認・質問）、④セルフコーチング、⑤研究開発現場でのコーチングの活用、⑥就職活動や自己管理などでのコーチングの活用、など。なお、講義、実習、評価については、本学大学院教員と連携して実施します。 第1日目：「セルフコーチングしよう」（自分の強みを見出す／目標を設定する／「わかつちやるけど、できないとき」への対処法など）	授業内容の振り返り 自分の強みを探す振り返り	30分
	第2日目：「コミュニケーション・スキルを磨こう」（コーチングとは／積極的傾聴／承認のスキル／質問のスキル など）	授業内容の振り返り コミュニケーションスキルの演習（家族や友達と話す）	60分
	第3日目：「夢の実現にコーチングを活用しよう」（“自分をつくる”言葉作り／3年後の自分イメージする／目標達成のコツ など）。	自主的な振り返り	15分

集中講義の例 開講日ごとに記載する例

実施にあたってはシラバス作成の便宜をはかるために 記載する例文集の配布を検討

授業時間外学修（予習および復習）		
本授業のシラバスの内容を確認する。	これまでの授業内容をふり返り、項目ごとに要点をまとめる。	授業内容に関連する文献を図書館で調べ、概要をノートにまとめる。
安全の手引きを読んで理解を深める。	自らの講義ノートを見直し、参考文献を参照して理解を深め、●●について整理する。	●●とは何かについて整理し、●●の現代的意義について考える。
これから●●学を学ぶにあたって、中学校や高等学校における●●学習の体験を振り返る。	この授業で学んだことを今後どのように活用できるか考える	●●に関する問題を整理し、自分の考えをまとめる。
左記に示す授業内容を復習する。	この講義から学んだことで自分にとって最も大切だと思うのは何かをじっくり考える。	高校の●●の教科書の記述と今回講義で学修したこととの共通点・相違点を確認する。
授業で実施する小テストの復習をする。	●●について予習する。	●●に関するレポートを作成する。
授業内に行った解説および配布資料の内容に基づいた復習用演習問題（宿題プリント）を解答する。	教科書の●●～●●ページを読んでおく。	グループごとに発表の準備を進める。
発表の振り返りを行う。	●●に関する参考資料を読んでおく。	事前に配布する資料を読み、ディスカッションに備えて意見を彫琢する。
授業内容を復習し、●●の実現方法を考える。	●●に関する準備をしておく。	●●に関する問題が突然出題されても答えられるように準備する。
授業内容を振り返り、自分の弱点を克服するための方法を考える。	●●について自分の意見をまとめておく。	〇〇〇〇（ゲスト登壇者）の専門分野を事前に調べ、質問項目を考える。
レジュメをもとに復習するとともに、授業中に紹介した文献などに目を通す。	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解する。	授業内容をワークシートにまとめる。
これまでの講義に関するノートや参考資料の整理を行う。	●●の概念について調べる。	授業終了時に指示する課題に取り組み、次回の授業で提出する

B班からの報告

B班

学修成果の把握・可視化を担当

石井和也(基盤), 横尾昇剛(地テ), 米山正文(国際), 酒井一博(教育), 大野和隆(学務)

学修ポートフォリオ導入の検討

学修者中心の学修ポートフォリオ (*)



学びと教育のプロセスを「見える化」

学生



継続的かつ定期的に学びを振り返ることを通じて学修の到達度を確認, 取り組むべき課題を発見

継続的・定期的な振り返り

教員



・教員は, 学修行動の記録を活用して授業の点検・評価を行うことで, 課題を発見するツールとして活用

適切な学修支援⁽¹⁾により学びを深化し, さまざまな知識と技能を自主的に修得

指導教員のコメントなどのフィードバック



・大学は, 教育プログラムの効果を明確化し, 教学マネジメントを点検するIRツールとして多面的に活用 (⇔ e-ポートフォリオ⁽²⁾が必要)

生涯に亘り身につけるべきキャリア「能力」を形成

(知識・理解, 汎用的能力, 態度・志向性, 創造的思考力など)

(*) 学修ポートフォリオシステムの導入・活用等の参考指針
平成29年5月31日公益社団法人私立大学情報教育協会大学情報システム研究委員会

(1) 機能充実や(2) 導入については今後検討する予定

本学における学修ポートフォリオの状況

★本学における学修ポートフォリオ（現状と課題）

現 状：学生の履修状況の確認表（科目・単位の修得状況確認表）としての役割が主。面談などにおいて履修指導に活用されている。（部局や専攻、また、特定の科目によっては、学生の自己評価（振り返り）欄や教員コメント欄が設けられている）

課 題：学生からは、卒業要件単位数のうち、どれだけ修得できたかを確認するのに便利であるが、紙媒体のため、毎学期手書きで記入する煩わしさを指摘。

指導教員からは、学生の個別成績票とポートフォリオの両方を点検し、かつ指導もしなければならないため、かなりの負担となっている。双方にとってポートフォリオのweb化が求められる。個別成績表のレーダーチャートなどと重複する部分があるので、ポートフォリオの必要性が低くなっている。

★本学実施による「就職先企業アンケート調査結果」

他大学卒業生と比較して、

「問題解決能力」，「チャレンジ精神」，「主体性」，
「コミュニケーション能力」，「リーダーシップ」，「創造性」，
「柔軟性」，「体力，ストレス耐性」

が低いという評価



汎用的能力の醸成を目指した ワークシートの導入（案）

★本学実施による「就職先企業アンケート調査結果」



汎用的能力の醸成が必要

3 Cで目指す力量を目標に設定

3 Cの力量の獲得状況を学生目線で視覚化

★実施要領（案）：年度当初にオリエンテーションなどで配布。学生は、前期末、後期末に目標の獲得の程度について、自己評価と振り返りを記載。指導教員等が面談（個別成績表の返却のとき）において確認し、口頭でコメント。具体的には、各項目ごとに3段階で学生が自己評価（○をつける）し、全体的な振り返りを記載。指導教員はそれに対し口頭でコメントし、汎用的能力の醸成を促す。

★実施対象（案）：1年次生（または2年次生）

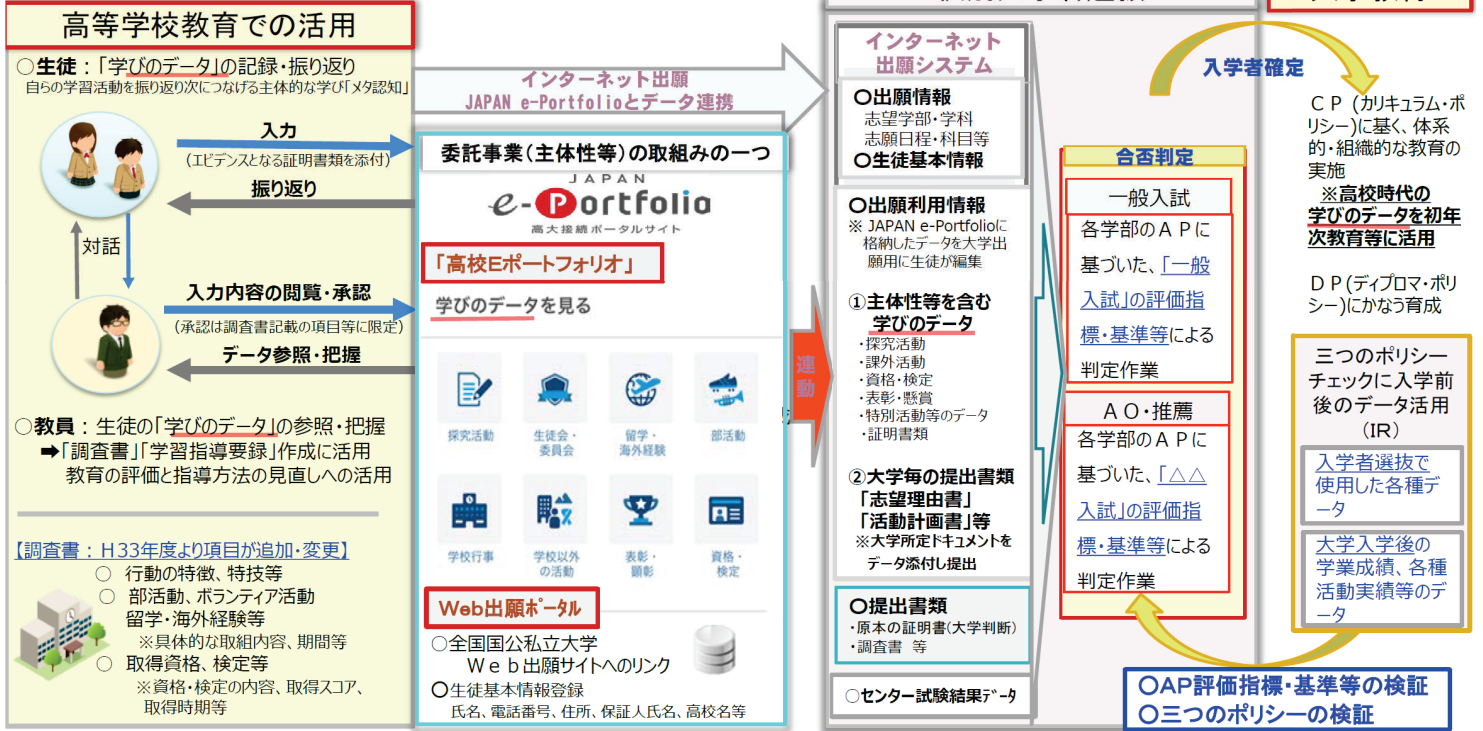
汎用的能力の醸成を目指したワークシート（案）										
現在のポートフォリオに以下を追加する。										
	項 目									
目 標	社会スキル									
	1. 自分の長所や短所を適切に自己評価した上で、自ら立てた計画に沿って目標達成のための努力をすることができる。									
	2. 社会の一員としての意識を持ち、社会の中で積極的に役割を果たすことができる。									
	認知スキル									
	3. 現状を分析することで課題を発見し、その解決方法を考えることができる。									
	4. 多様な意見に耳を傾け、意見や立場の違いを超えて他者とともに物事を進めることができる。									
	5. 現状を分析し、新しいアイデア・問い・成果物を生み出すことができる。									
	6. 自らの学び方を正しく自己評価し、継続的に自律的な学修を行うことができる。									
	基礎的リテラシー									
7. 知識を体系的に理解するとともに、複数の視点から物事を捉え、その結果をもとに論理的な文章を書くことができる。										
8. 適切な文献・資料・データを収集し、それらを批判的に分析することができる。										
9. 外国語や統計データを用い、自分の考えを他者にわかりやすく示すことができる。										
◎ 自己評価欄の A, B, C (A: 十分できた, B: おおむねできた, C: あまりできなかった) に○をつける。										
年度当初に目的や実施方法などについて指導教員から説明を受ける。										
前期	自己評価欄									
	項目番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	達成度	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C
	(注) Aに○をつけた項目がある場合、簡単にその根拠を記載してください。									
教員確認										
前期の自己評価結果や面談での指導教員からのコメントを踏まえ、自身で特に心がけたいことなど(留意点)を記入。										
留意点 (10月)										
後期	自己評価欄									
	項目番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	達成度	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C
	(注) Aに○をつけた項目がある場合、簡単にその根拠を記載してください。									
教員確認										
振り返り ^(*) (2月)										

(*) 留意点をもとに振り返りをしてください。

ICTを活用し「主体性等」を評価する入試学者選抜モデルの取組み状況（2018年度）

高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」（文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）の取組の一つ）

- 大学入学者選抜に活用できる仕組みを目指し構築中の高校eポートフォリオ・大学出願ポータルサイト。
- 生徒が主体性等に関わる諸活動を「JAPAN e-Portfolio」に記録。
- 大学入学者選抜において、学力の3要素、とりわけ「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を適切に評価し多面的・総合的評価の実現に貢献することを目指す。
- 委託事業（主体性等）への取組み参加は、各高等学校、各大学の判断。



文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学入試室 「情報信託機能の認定スキームの在り方に関する検討会」資料

教育戦略企画チーム活動報告

特別チームからの報告

特別
チーム

DPの再検討，レーダーチャート運用改善，3C到達度チェックシート改善を担当

藤井佐知子(理事)，石井和也(基盤)，酒井一博(教育)

3C到達度チェックシートの問題点および改善の方向性

現在の3C到達度チェックシート

3C	9つの力	構成要素
自らに課する Challenge	課題を見つけ出す力 Problem identification	授業における学びから興味を広げることができる 自らの置かれている状況を認識することができる 現状を分析し、目的や課題を発見することができる
	論理的に考える力 Critical thinking	知識を体系的に理解することができる 複数の視点から物事をとらえることができる 概念を既存の知識や経験に関連づけることができる
	情報を使いこなす力 Information literacy	手段を適切に選んで情報を収集することができる 批判的に情報や情報探索過程を評価することができる 情報の真偽を明示し、自分の主張を論理的に裏付けることができる
自らを表現する Change	表現する力 Communication	自分の考えを他者に分かり易く伝えることができる シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる 特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる
	他者と協同する力 Collaboration	多様な人々とコミュニケーションを図ることができる 他の人の話にじっくり耳を傾けることができる 意見の違いや立場の違いを理解することができる
	キャリアデザイン力 Life and career	自分の長所や得意分野を見つけることができる なりたい自分をイメージすることができる 目標を設定し、計画を立てることができる
社会に貢献する Contribution	生み出す力 Creativity	新しいアイデア・問い・成果物を創造できる 現状を分析して改善案を示すことができる 自律的な学習を行うことができる
	チームワークを育む力 Teamwork	ルールを作り、また守ることができる 多様性を尊重して物事を進めることができる 必要とされる役割を率先して担うことができる
	地域に踏み出す力 Citizenship	新しいことに興味・関心を持ち参加することができる 社会の一員としての意識を持ち行動をおこすことができる 地域の活動に積極的に関わることができる

問題点

- ✓ 9つの汎用的能力の関係性が曖昧 (9つの力が並列している)
- ✓ 構成要素が煩雑 (何を重視すればよいか分かりにくい)
- ✓ 身に付けるべき力の欠落 (「学修する力」等)
- ✓ DPとの関連性が不明瞭 (宇大における3C到達度チェックシートの位置づけが分かりにくい)

改善の方向性

- ✓ 全国学生調査の質問項目も参考にしながら9つの力を再検討する
- ✓ 9つの力を学修の段階に沿っていくつかのカテゴリーに分類する
- ✓ DPの到達度を示すレーダーチャートと3C到達度チェックシートを結びつけ、学修成果可視化システムを活用しやすいものに整理する

汎用的能力についての全学共通のDP

3C到達度チェックシートの問題点および改善の方向性

DPへの組み込み

3C到達度チェックシートの改善案

社会スキル：社会の中で自律しながら他者と関係を築く

キャリアデザイン力

自分の長所や短所を適切に自己評価した上で、自ら立てた計画に沿って目標達成のための努力をすることができる。
社会に踏み出す力
社会の一員としての意識を持ち、社会の中で積極的に役割を果たすことができる。

認知スキル：思考力や学び方を学ぶ

課題を見つけ解決する力

現状を分析することで課題を発見し、その解決方法を考えることができる。

多様な人々と協働する力

多様な意見に耳を傾け、意見や立場の違いを超えて他者とともに物事を進めることができる。

創造する力

現状を分析し、新しいアイデア・問い・成果物を生み出すことができる。

学修する力

自らの学び方を正しく自己評価し、継続的に自律的な学修を行うことができる。

基礎的リテラシー：言語や数・情報を的確に活用する

論理的に考える力

知識を体系的に理解するとともに、複数の視点から物事を捉え、その結果をもとに論理的な文章を書くことができる。

情報を使いこなす力

適切な文献・資料・データを収集し、それらを批判的に分析することができる。

表現する力

外国語や統計データを用い、自分の考えを他者にわかりやすく示すことができる。

3C到達度チェックシートを汎用的能力に関する全学共通のDPと位置づけ、部局設定DPとの2段構えとする (例: 阪大, 茨大, 岡山大等)。

宇都宮大学のDP

全学共通DP
(汎用的能力)

+

部局設定DP
(専門知識・技能)

基盤教育の再編

汎用的能力に関するDPの達成のために、基盤教育は汎用的能力の基礎を身に付けさせるプログラムとして重要となる。改善案に示した3カテゴリーに沿う形で基盤教育を再編する必要がある。

新レーダーチャートのイメージ

全学共通DP（汎用的能力）

社会スキル

キャリアデザイン力／社会に踏み出す力

認知スキル

課題を見つけ解決する力／多様な人々と協働する力
創造する力／学修する力

基礎的リテラシー

論理的に考える力／情報を使いこなす力
表現する力



学部専門教育の中で培う汎用的能力の力量を数値化，全学共通DPに算入

部局設定DP（専門知識・技能）

専門1

学校教育や教職についての知識

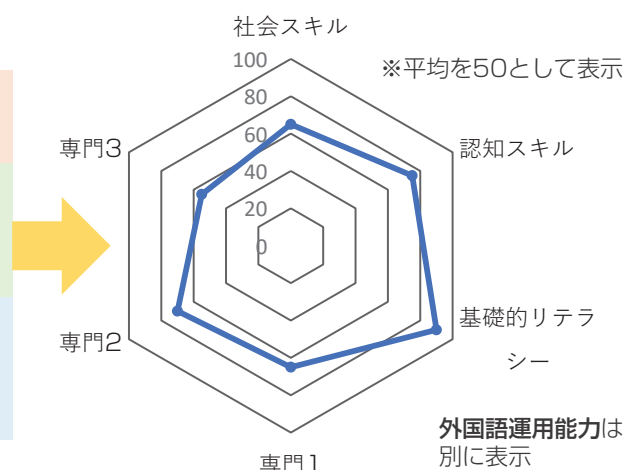
専門2

子どもや教育法についての知識・技能

専門3

教科や教材についての知識・技能

教育学部をイメージした例



専門知識・技能の力量のみを数値化



**高知大学
e-ポートフォリオ**

教員用マニュアル ver.1

学務課教育支援室総務係
Email : e-port@kochi-u.ac.jp
2017/12/05

1. 目次

1. 目次	2
2. e-ポートフォリオとは	3
3. アクセス方法	4
1) ログイン画面	4
2) ログイン後のお知らせ画面	5
3) ログアウトについて.....	5
4. ホーム画面	6
1) 「授業担当教員」と「アドバイザー教員」の表示画面を変更する	6
2) e-ポートフォリオの教員用・学生用マニュアルを閲覧する	6
3) サイトの色を変更する	6
5. 「授業担当教員」として閲覧する	7
1) 授業担当教員「ホーム画面」の表示項目について	7
2) 授業の振り返りアンケートを設定する	9
3) 授業の振り返りアンケートの結果を確認する	10
4) 担当授業科目の「成績評価分布」を表示する	11
6. 「アドバイザー教員」として閲覧する	12
1) 「アドバイザー教員」ホーム画面の表示項目について	12
2) 閲覧希望のアドバイザー学生を選択する	13
7. アドバイジー学生の情報を確認する	14
1) アドバイジー学生の「ホーム画面」について	15
2) アドバイジー学生の「履修状況」を確認する	16
3) アドバイジー学生の「授業科目別の成績評価分布」を確認する	18
4) アドバイジー学生の過去の成績分布を確認する	19
5) アドバイジー学生の「これまでの成績分布（累計）」を確認する	19
6) アドバイジー学生の「GPA・修得単位数の推移」を確認する	20
7) アドバイジー学生の「学生生活記録」を確認する	21
8) アドバイジー学生の「卒業後の進路希望」を確認する	21
9) アドバイジー学生の「地方創生推進士」関係科目の単位修得状況を確認する	22
10) アドバイジー学生の「資格取得状況」を確認する	22
11) アドバイジー学生の「大学生基礎カレポート」の結果を確認する	23
12) アドバイジー学生の「TOEIC 試験」の結果を確認する	23
13) アドバイジー学生の「セルフアセスメント」の結果を確認する	24
14) アドバイジー学生の「目標や振り返り」を確認する	24
15) アドバイジー学生との「面談記録」画面構成について	25
16) アドバイジー学生との「面談記録」を記録する	26
17) アドバイジー学生への「メッセージ」機能について	28
8. 索引	29

2. e-ポートフォリオとは

e-ポートフォリオとは？

入学から卒業までの履修、成績、課外活動等の学びに関わる情報をわかりやすく可視化し集積するWEBシステムです。学生が学修の振り返りや目標を設定するためのツールであり、学生たちは、e-ポートフォリオを活用し、自分の掲げた目標や正課外活動等の出来事、資格取得などを記録していきます。

教員用は、授業担当教員画面とアドバイザー教員画面の2つの要素で構成されています。

1. 授業担当教員画面

授業担当教員として、受講者名簿、シラバス、成績評価分布等の授業に関わる情報について確認することができ、教務情報システムのKULASと連携しています。シラバスや成績入力、レポート課題提示等はこれまでと同様にKULASでお願いいたします。違いは、成績評価分布を受講者と共有できること、授業振り返りアンケートを作成でき、即座に集計できることです。

2. アドバイザー教員画面

アドバイザー教員として、担当するアドバイザー学生の履修状況とこれまでの学修成果についての確認ができ、指導に活用することができます。特徴は3つあります。①アドバイザー学生の学修成果についてグラフで可視化できます。②学生の卒業後の進路希望状況についても、e-ポートフォリオ上で確認することができ、指導に活用できます。③学生面談後に、その面談記録を記入することができ、これまでの指導等についても時系列で表示し、指導記録の蓄積ができます。

5. 「授業担当教員」として閲覧する

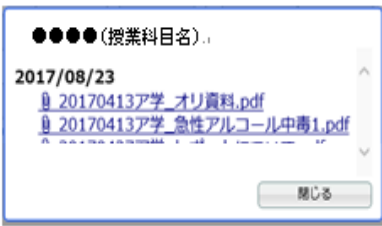

「授業担当教員」としてできること

閲覧項目	担当授業科目一覧と開講日時、受講者名簿・シラバス・設定したルーブリックの結果 (2017年12月現在未実装)・講義資料 (KULAS にアップされたもの)・資料 URL (KULAS にアップされたもの・e-ポートフォリオ上で追加登録したもの)・成績評価 分布・授業振り返りアンケート等の項目とその結果
入力項目	授業の振り返りアンケートの項目の設定、資料 URL の設定 授業科目ごとのルーブリックの設定 (ルーブリックは2017年12月現在未実装)

1) 授業担当教員「ホーム画面」の表示項目について

(1) 画面の①「授業担当教員」を選択すると、以下のホーム画面が表示されます。

項目	表示内容
①表示画面の教員の選択	授業担当教員とアドバイザー教員との画面切り替え
②プロフィール	ログイン者のプロフィール情報
③表示年度・学期	閲覧希望の年度・学期をプルダウンから選択が可能です。
④ ⑤で選択した年度・学期の担当授業科目一覧 開講日時 受講者名簿	③で選択した年度・学期の担当授業科目一覧・開講日時・ 受講者名簿 ※2016年度以前のデータはKULASを参照ください。 <input type="button" value="受講者名簿"/> クリック後、選択した授業科目の受講生名簿が確認できます。
⑤シラバス・ ルーブリック	<input type="button" value="シラバス"/> クリック後、選択した授業科目のシラバスが別ウィンドウで開きます。 <input type="button" value="ルーブリック"/> クリック後、選択した授業科目のルーブリックが別ウィンドウで開きます。 <u>(ルーブリックは2017年12月現在未実装、今後実装予定)</u>

<p>⑥ 講義資料 ※学生への講義資料の表示について KULAS で講義資料に公開期間を設定している場合、学生は、e-ポートフォリオでも同期間のみ閲覧が可能です。</p>	<p>講義資料 クリック後、選択した授業科目の講義資料（KULAS にアップされたもの）一覧が右図のようにポップアップ表示されます。 ※ダウンロードも可能です。</p> 
<p>⑦ 資料 URL</p>	<p>資料URL クリック後、選択した授業科目のシラバスに記載された URL 一覧が※ 1 欄にポップアップ表示されます。また、下図の※ 2 欄に、任意のリンク先を登録することも可能です。 <u>ただし、シラバスには反映されません。</u></p> <p>【資料 URL の追加入力方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「資料 URL」欄にリンク先の URL を入力します。その際、URL アドレスは半角英数字で入力してください。 2. 入力完了後、「編集」を選択します。 
<p>⑧ 授業の振り返り</p>	<p>評価項目入力 クリック後、選択した授業科目の授業振り返りの設定画面へ移動します。 <u>詳細は P.9 を参照</u></p>
<p>⑨ 成績評価分布</p>	<p>成績評価分布 クリック後、選択した授業科目の成績評価分布画面へ移動します。 <u>詳細は P.11 を参照</u></p>

7. アドバイジー学生の情報を確認する

(1) P.12 の「2」 閲覧希望のアドバイジー学生を選択する」で選択したアドバイジー学生の画面より、①～⑥のアドバイジー学生の情報を確認できます。



項目	表示内容
①ホーム	選択したアドバイジー学生のプロフィール・各年度・学期ごとの時間割、目標や振り返り、アドバイザー教員情報と e-ポートフォリオから送信されたアドバイザー教員からのメッセージの確認、学生生活記録の確認ができます。 <u>詳細は P.15 を参照</u>
②履修状況	選択したアドバイジー学生の現在までの履修科目一覧や各科目の成績評価分布・履修科目の平均点・標準偏差等の確認ができます。 <u>詳細は P.16 を参照</u>
③成績分布	選択したアドバイジー学生の現在までの成績分布や修得単位数（累積）等が確認できます。 <u>詳細は P.19～20 を参照</u>
④学生生活記録	選択したアドバイジー学生が任意で記録した在学中の準正課活動・部活動・サークル活動・ボランティア活動、マイストーリー（自由記録ページ）など様々な活動記録が確認できます。 <u>詳細は P.21 を参照</u>
⑤進路・資格	選択したアドバイジー学生が記録した卒業後の進路希望、在学中に取得した資格取得状況（任意で学生が記録した情報）、地方創生推進士に関する情報、TOEIC 等の外国語能力試験・大学生基礎力レポート・セルフアセスメント等の結果の確認ができます。 <u>詳細は P.21～24 を参照</u>
⑥面談記録	選択したアドバイジー学生との面談記録の入力や、e-ポートフォリオ内でアドバイジー学生へフィードバックができます。 <u>詳細は P.25～28 を参照</u> <u>※面談記録はアドバイジー学生には表示されません。</u>

※①～⑤はアドバイジー学生に表示される画面と同じ表示内容が閲覧できます。
ただし、アドバイジー学生が非公開設定としている情報は表示されません。

【アドバイジー学生が公開・非公開を選択できる項目】

- ④の学生生活記録の「マイストーリー」欄（詳細は P.20 を参照）
- ⑤の進路・資格内の「TOEIC 等の外国語能力試験」の結果欄（詳細は P.22 を参照）

第3回教育戦略企画チーム会議資料

各部局におけるポートフォリオの運用状況について

多面的能力評価法（パフォーマンス評価・自己評価等）導入を目指した調査研究に向け、以下の通り、前回会議後に各部局のチームメンバーから、各部局におけるポートフォリオの運用状況について現状と課題をご報告頂きました。

○地域デザイン科学部

コミュニティデザイン学科

1. 学修ポートフォリオの運用方法

- ・3年生までは担任が、4年生以降はゼミ担当教員が、成績返却時にあわせて使用。

2. 学修ポートフォリオ使用方法

- ・紙ベースで学生が手書きで記入し、学生に管理させている
- ・学生が前の学期までに修得した単位数を科目区分ごとに記入
- ・今学期に修得する授業を科目名欄に記入
- ・単位を修得したら単位数を記入。修得できなかった場合は0を記入
- ・科目区分ごとに「今期単位数計」を記入
- ・今期単位数計と今期以前単位数計を合計して「修得済み単位数計」に記入
- ・その学期の履修から学生が学んだことを簡潔に記録。ここでは特定の科目だけではなく、その学期の授業全体を通じて学んだ内容についてふり返り、コメント欄に記入。
- ・指定された時間に担任教員から履修状況について確認を受け、必要な場合はオフィスアワーなどで指導を受ける

3. 学修ポートフォリオを用いた効果

- ・担任・ゼミ担当教員としては、学期ごとに学生と共に科目区分ごとや専門科目の領域ごとの履修状況を効果的に確認でき、対面での学生指導の質が高まっている。

建築都市デザイン学科

1. 学修ポートフォリオの運用方法

- ・1年入学時に配布する学生の手引き内に単位修得自己チェック表をポートフォリオとして運用。
- ・学期ごとの成績表配布を全て個別面談として、各人5分程度面談し、成績表配布に合わせて、ポートフォリオの提示、取得単位の状況を学生本人が確認。

2. 学修ポートフォリオ使用方法

学生本人が確認、記入。

- 3. 4年進級判定に係る3年次には学生本人に入念に確認させ、進級要件を満たす指導を実施。その効果として、休学者1名を除き、1名のみが進級不可、51名が進級。新学部以降前後で比較すると向上している。

社会基盤デザイン学科

1. 学修ポートフォリオの運用方法

- ・達成度評価シートというものを作成し使用。単位の取得状況を把握し、学科の学修教育

到達目標に対して現状の達成状況を確認している。学修内容などの細かな中身は記載していない。

2. 学修ポートフォリオ使用方法

・面談では使う場合もあり、成績を学生に配布した後に、学生自身が進捗を確認するために入力作業を行う。3年生から4年生進級するための条件や、卒業要件は入っている。

3. 学修ポートフォリオを用いた効果

・効果はそれなりにあり、単位としてとれば良いという考えの学生に関しての効果は低い傾向。

○国際学部

(1) 運用方法

主に履修状況の確認表(科目・単位の修得状況確認表)の役割を持っている。各学期初めに指導教員(1～3年前期:学年指導教員, 3年後期～4年:卒業研究指導教員)から用紙が学生に渡される。学生は個別成績票を見ながら、履修科目と修得単位を記入し、卒業に必要な単位のうちどれだけ修得できたかを確認する。また、学生は前学期の振り返りと新学期の目標を記入する。指導教員がそれを受けとり点検し押印した後、原本は本人に返却し、1部コピーを保管する。

(2) 運用上の問題点

学生からの意見では、メリットとして、卒業要件単位数のうち、どれだけ修得できたかを確認するのに便利とのことである。ただ、紙媒体のため、毎学期手書きで記入する煩わしさを指摘している。また、教員の方も、3年前期までは学年指導教員が1人30人～40人程度の学生の、個別成績票とポートフォリオの両方を点検し、かつ指導もしなければいけないため、かなりの負担となる。双方にとってポートフォリオのweb化が求められている。また現在、カリキュラムWGからの提言により、TOEIC-IPスコアや海外体験などの情報もポートフォリオに入れる案が教務委員会で検討されている。

○教育学部

運用方法:教育学部では、「学びの軌跡(エクセルファイル)(*)」を運用。1年次当初に、教育実践科目ガイダンスの中で活用法を説明。教師としての資質能力の向上を目指し、学生は自己評価を記載。それに対し、指導教員がコメントする。学生と指導教員とのファイルのやり取り(教員によるコメント記載)は年1回。運用の効果については未確認である。履修科目・取得単位数の確認については有効である。

運用上の問題点:学生は年に1度、メールで担任に提出、担任がコメントし返信。ファイルを集めるだけでも大変。ある教員はe-Learning上に提出させているが、ひとつずつダウンロードするのも手間がかかる。継続性を考えると年に複数回のやり取りは、実際には大変難しい。ポートフォリオを学生とWeb画面上で共有できるシステムが必要である。

教育学部では、別途(*)教育実践科目に特化したポートフォリオ(紙媒体のワークシート)も運用している。各授業の中で複数回、学生と指導教員とのやり取り(教員によるコメント記載)がある。

○工学部

機械システム工学科，電気電子工学科，応用化学科が過去に JABEE 認定を受けており，学科ごとに独自のフォーマットでポートフォリオを作成し，学生個人の達成度評価システムを構築している。しかし，平成 31 年度からの学科改組にさきがけてすべての旧学科の JABEE 認定は取り消しており，平成 31 年 4 月から運用が始まった基盤工学科の新カリキュラムについては，新入生に向けたポートフォリオの作成には至っていない。

どの旧学科も JABEE 実施期間内は，全学生がポートフォリオを正しく記入しているかを学期ごとに管理，指導しその状態を維持し続けるためにかなりの労力を費やした。現状では学修者の主体性にまかした運用で定期的な提出を義務とはしていない。教員側がポートフォリオを活用しているのは，担任と学生との個人面談での利用，4 年生に進級し各学科における研究室配属条件を満たしているかをチェックする資料として利用している。学生側としては，各自の学習達成度がレーダーチャートやグラフとして可視化されるシステムになっているものの，それを活用し励みにしている学生の実数は不明である。

○農学部

■生物資源科学科

・運用方法

生物資源科学科では添付ファイルを運用。1 年次当初に，ガイダンスの中で活用法を説明。学生と担任との間で学期毎に用紙をやりとりしている。

・運用上の問題点

特になし。

■応用生命化学科

・運用方法

1 年次の必修科目「情報処理基礎」の講義でファイルの配布および活用法を説明。担任によって多少のばらつきはあるが，概ね，成績表とポートフォリオを使って，学生との面談を行い，ポートフォリオの内容などに不備があれば，学生に再提出させている。

・運用上の問題点

成績表のレーダーチャートなどと重複する部分があるので必要性が低くなってきた点がある。

■農業環境工学科

・運用方法

2 年次の必修科目「コンピュータデータ処理」において Excel ファイルの使用方法を説明している。学生には成績通知書受取時に入力し，プリントアウトしたものを提出することを求めている。なお，今年度より，ポートフォリオでのレーダーチャートは削除した。

・運用上の問題点

学年により提出状況にバラツキがある。また，成績を自動的に取り込むことができれば，成績通知書返却時の面談に活用することができる。

汎用的能力の醸成を目指したワークシート(案)

現行のポートフォリオに以下を追加する。

項目

社会スキル

1. 自分の長所や短所を適切に自己評価した上で、自ら立てた計画に沿って目標達成のための努力をすることができる。
2. 社会の一員としての意識を持ち、社会の中で積極的に役割を果たすことができる。

認知スキル

- 目標
3. 現状を分析することで課題を発見し、その解決方法を考えることができる。
 4. 多様な意見に耳を傾け、意見や立場の違いを超えて他者とともに物事を進めることができる。
 5. 現状を分析し、新しいアイデア・問い・成果物を生み出すことができる。
 6. 自らの学び方を正しく自己評価し、継続的に自律的な学修を行うことができる。

基礎的リテラシー

7. 知識を体系的に理解するとともに、複数の視点から物事を捉え、その結果をもとに論理的文章を書くことができる。
8. 適切な文献・資料・データを収集し、それらを批判的に分析することができる。
9. 外国語や統計データを用い、自分の考えを他者にわかりやすく示すことができる。

◎ 自己評価欄の A, B, C (A:十分できた, B:おおむねできた, C:あまりできなかった)に○をつける。

前期	年度当初に目的や実施方法などについて指導教員から説明を受ける。									
	自己評価欄									
	項目番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	達成度	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C
	振り返り (7月)	(注)Aに○をつけた項目がある場合、簡単にその根拠を記載してください。								教員確認

後期	前期の自己評価結果や面談での指導教員からのコメントを踏まえ、自身で特に心がけたいことなど(留意点)を記入。									
	留意点 (10月)									
	自己評価欄									
	項目番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	達成度	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C	A, B, C
振り返り ^(*) (2月)	(注)Aに○をつけた項目がある場合、簡単にその根拠を記載してください。								教員確認	

(*)留意点をもとに振り返りをしてください。